人間の尊厳と自立

講師:勝 智樹

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。
尊厳の保持、自立(自律)の支援、ノーマライゼーション、権利擁護等の介護の基本的な理念を理解する。
これらの理念を踏まえ、介護場面における倫理的課題に対応するために介護福祉士として必要なことは何か。倫理・知識・技術の側面から考え、自分自身の目指す介護福祉士のイメージを明確にする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	開講オリエンテーション～福祉とは	講義・GW	グループでの役割分担の確認をする
2	社会福祉とは～憲法第25条・ノーマライゼーション	講義・GW	互いに意見を出し合う
3	しあわせについて考える～憲法第13条	講義・GW	互いに意見を出し合う
4	介護福祉士とは	講義・GW	互いに意見を出し合う
5	援助者に必要な要素とは	講義・GW	互いに意見を出し合う
6	価値について考える	講義・GW	互いに意見を出し合う
7	事例検討	GW	ディスカッションに積極的に参加する
8	事例検討	GW	ディスカッションに積極的に参加する
9	尊厳と自立について考える①	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する
10	尊厳と自立について考える②	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する
11	尊厳と自立について考える③	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する
12	権利擁護とアドボカシー	講義・GW	自分の立場を明確にしたうえでディスカッションに積極的に参加する
13	私の目指す介護福祉士とは①	GW	課題レポートのポスター発表
14	私の目指す介護福祉士とは②	GW	課題レポートのポスター発表
15	私の目指す介護福祉士とは③	GW	課題レポートのポスター発表

■受講上の注意

グループワークでは、意見交換を中心に行います。積極的に考えを述べ、周りの意見を聴くこと。

■成績評価の方法

① 課題レポートおよびポスター発表　90%　② レスポンスシート　10%

■テキスト参考書など

1人間の理解「介護福祉士養成講座編成委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による授業である

人間関係とコミュニケーションA

講師：岡山 隆二

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1.人間と人間関係、対人関係におけるコミュニケーション、対人援助関係とコミュニケーションおよび組織におけるコミュニケーションについて、基礎的な知識と技術を習得する。
2. 自己理解と他者理解、組織・チーム力の必要性を学んだ上で、介護実践のために必要なコミュニケーションスキルを習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間の誕生と介護の関係について理解する	講義	人間らしさの象徴として、介護を行うように進化したプロセスについて考える
2	自分と他者の理解を深める	講義	自分と他者、自分らしさについて考えることを通して、人間関係の形成を理解する
3	発達心理学からみた人間関係を理解する	講義	人間の段階的な発達という観点から、人間関係の広がりについて考える
4	社会心理学からみた人間関係を理解する	講義	家族、学校、職場などの集団がもつ心理的な力が、人間関係にどのような影響を及ぼすか考える
5	人間関係とストレスを理解する	講義・演習	人とのかかわりで生じるストレスについて学び、適切に対処するための方法を考える
6	コミュニケーションの概念を理解する	講義	コミュニケーションの語源から、その意味を理解するとともに、コミュニケーションの基本的なあり方を考える
7	コミュニケーションの基本構造を理解する	講義	コミュニケーションの基本構造について、メッセージ、送りて、受け手の3つに分けて考える
8	コミュニケーションの手段を理解する	講義・演習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションとの関係性について考える
9	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーションを理解する	講義	人間関係の発展と後退におけるコミュニケーションとの関係について考える
10	対人援助における基本的態度を理解する	講義	援助的人間関係を形成していく基本となる、態度としての受容、共感、傾聴について考える
11	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則を理解する	講義・演習	ケースワークの原則をもとに、介護福祉士が援助関係を形成していく際の基本的な方法を考える
12	組織の条件とコミュニケーションの特徴を理解する	講義	メンバーの人数が多い大集団の組織の条件と組織でのコミュニケーションの特徴を考える
13	組織における情報の流れを理解する	講義	組織におけるトップダウン、ボトムアップのタテの情報の流れと、水平的なヨコの情報の流れについて考える
14	組織において求められるコミュニケーションを理解する	講義・演習	報告・連絡・相談など、どのようなコミュニケーションが組織やチームで求められるか考える
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	

■受講上の注意

コミュニケーションに関する科目であるため、演習を重視し、積極的な参加、発言を求めます。

■成績評価の方法

①終講試験70%　②提出物・授業への関わり方30%

■テキスト参考書など

1　人間の理解 「介護福祉士養成講座編成委員会」 中央法規

■備考

テキスト以外の資料を配布することもあります。パワーポイントを使用する場合もあります。

■実務経験

人間関係とコミュニケーションB

講師：岡山 隆二

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1．介護実践におけるチームマネジメントについて、その意義と、ケアの展開、人材育成・自己研鑽、組織の目標達成のためのチームマネジメントについて、基礎的及び実践的な知識と技術を習得する。
2．チームマネジメントの基本的及び実践的な知識と技術を習得し、介護福祉職としてキャリア形成を築くための基盤をつくる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ヒューマンサービスとしての介護サービスについて理解する	講義	介護サービスと他の分野の仕事を比較しながら、介護サービスの特性を考える
2	介護現場で求められるチームマネジメントについて理解する	講義	介護人材を取り巻く現状や、ケアマネジメントにおける介護過程の位置づけから、介護福祉士がリーダーとして担うべき役割を考える
3	介護実践におけるチームマネジメントへの取り組みについて理解する	講義・演習	ケアを展開、人材育成・自己研鑽、組織の目標達成を考える
4	ケアを展開するために必要なチームとその取り組みについて理解する	講義	ケアをてんかいするために、どのようなチームが必要か、どのようなメンバーがいるのかを考える
5	チームでケアを展開するためのマネジメントについて理解する	講義	情報共有と役割分担について、職種による支店の違いやケアの方針の重要性を考える
6	チームの力を最大化するためのマネジメントについて理解する	講義・演習	メンバーそれぞれがもつ力最大限に発揮し、相乗効果によってチームの力を最大化していくために求められるリーダーとフォローのあり方について考える
7	介護福祉職のキャリアと求められる実践力について理解する	講義	より良いケアを行うために、介護福祉職個々の実践力を高めることについて考える
8	介護福祉浴としてのキャリアデザインについて理解する	講義	介護福祉職の実践力を、どのように計画的・段階的に開発・獲得していくことができるか考える
9	介護福祉職のキャリア支援・開発について理解する	講義	OJT、off-JT 、スーパービジョン、コンサルテーションについて考える
10	自己研鑽に必要な姿勢について理解する	講義・演習	自己研鑽が求められる理由や方法について考える
11	介護サービスを支える組織の構造について理解する	講義	組織の構造を確認し、組織の機能と役割、介護サービスをどのように支えているのかを考える
12	介護サービスを支える組織の機能について理解する	講義	介護サービスを軸にして、それを支える組織のもつ機能と役割について考える
13	介護サービスを支える組織の管理について理解する①	講義	組織の運営・管理について、介護福祉職にかかわりの深いものを中心に考える①
14	介護サービスを支える組織の管理について理解する②	講義・演習	組織の運営・管理について介護福祉職にかかわりの深いものを中心に考える②
15	終講試験・まとめ	終講試験・講義	

■受講上の注意

コミュニケーションとマネジメントに関する基礎的及び実践的な知識・技術を習得するための科目であり、演習を重視し、積極的な参加、発言を求めます。

■成績評価の方法

①終講試験70%　②提出物・授業への関わり方30%

■テキスト参考書など

1　人間の理解 「介護福祉士養成講座編成委員会」中央法規

■備考

■実務経験

社会の理解A

講師:三原 めぐみ

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

個や集団、社会の単位で人間関係を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。
対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。
日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	地域福祉の成り立ちと取り組みについて理解する	講義	テキストを読んでくる
2	地域共生社会という考え方が出てきた背景について理解する	講義	テキストを読んでくる
3	地域包括ケアの目指す介護の在り方について理解する	講義	テキストを読んでくる
4	社会保障の目的や機能について理解する	講義	テキストを読んでくる
5	社会保障制度の歴史を学ぶ。	講義	テキストを読んでくる
6	社会保障制度のしくみを学ぶ。	講義・GW	テキストを読んでくる
7	社会保険制度を理解する① （年金保険）	講義	テキストを読んでくる 小テスト
8	社会保険制度を理解する② （年金保険）	講義	テキストを読んでくる
9	社会保険制度を理解する③ （医療保険）	講義	テキストを読んでくる 小テスト
10	社会保険制度を理解する④ （医療保険）	講義	テキストを読んでくる 小テスト
11	社会保険制度を理解する⑤ （労働保険）	講義	テキストを読んでくる 小テスト
12	社会保険制度を理解する⑥ （労働保険）	講義	テキストを読んでくる
13	現代の社会保障制度と課題を考える	講義・GW	テキストを読んでくる 小テスト
14	持続可能な社会保障制度について考える	講義・GW	テキストを読んでくる
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	テキストやワークシート等をしっかりと復習しておく

■受講上の注意

事前にテキストを読んでくること。（ページは事前に指定します。）
新出語句や用語については、授業中に質問し授業の中で必ず理解すること。

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②小テスト　20%

■テキスト参考書など

2社会の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
諸制度・施策に関しては、必要に応じて、プリントを配布

■備考

■実務経験

社会の理解B

講師:迫 節子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて（介護保険制度と障害者総合支援制度）理解し、介護実践に必要な観点から基礎的な学習をする。
高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	高齢者保健福祉における移り変わりと今日的課題について学ぶ。	講義	事前にテキストを読んでおく
2	高齢者保健福祉に関連する法体系の概要と各法律の役割について学ぶ。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
3	介護保険制度創設の背景と目的、しくみを理解する。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
4	介護保険サービスの利用手続き、種類と内容について学ぶ	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
5	介護保険制度における地域支援事業、地域包括ケアシステムについて理解する。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
6	介護保険制度における介護支援専門員の役割と介護保険制度の動向を理解できる。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
7	介護保険制度を理解できる。（まとめと振り返り）	講義	理解度確認テスト
8	障害者福祉の現状と歴史，動向,定義について理解できる。	講義	事前にテキストを読んでおく
9	障害者保健福祉の法律の全体像を理解できる。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
10	障害者総合支援制度の目的、関わる組織とその役割を理解できる。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
11	障害福祉サービスの種類と内容、利用手続きなどしくみについて学ぶ。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
12	人々の権利を擁護する諸施策を理解できる。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
13	保健医療にかかわる諸制度を理解できる。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
14	生活を支援する諸制度を理解できる。	講義	事前にテキストを読んでおく 小テスト
15	まとめ・終講試験	筆記試験・講義	

■受講上の注意

シラバスを確認し、予習をしてくること。忘れ物をしない。レポートの提出期限を守ること。講義に主体的に臨むこと。配布資料はファイルし、保管すること。

■成績評価の方法

① 終講試験 60% ② 小テスト・課題 40%

■テキスト参考書など

2社会の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
図解でスッキリ！「介護福祉士テキスト」ナツメ社

■備考

適宜資料を配布

■実務経験

本科目は社会福祉士として実務経験のある教員による授業である

心理学

講師:大薗 博記

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

心理学の概論的内容を学ぶことにより、人間の心と行動を科学的に検討する視点を養う。
心理学についての基本的知識を習得し、他者の行動や社会について多面的に理解する力を獲得する
心理学を活かして、良好な人間関係や社会的環境の構築を図ることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	心理学とはどのような学問か、その前提を理解する	講義	人の心とは何かについて、自身の意見を考えておく
2	人の感覚・知覚・注意について、体験を通じて学ぶ	講義	身の回りにある「錯覚」を探しておく
3	人の思考や意思決定のバイアス(偏り)について理解する	講義	自分自身が物事をいかに考えているのか、振り返ってみる
4	記憶と学習のメカニズムを理解する	講義	自分がこれまでに効率的な学習をしてきたか、振り返ってみる
5	脳と心の関係について、基礎的な事項を学ぶ	講義	脳科学に関わる最近のニュースについて調べておく
6	感情のメカニズムとその機能を理解する	講義	感情の良い面、悪い面を考えておく
7	対人関係や集団の中での人の心理を学ぶ	講義	集団行動がうまくいった経験、うまくいかなかった経験を思い出しておく
8	人がいかに発達していくのかについて理解する	講義	幼少期における自身の成長について考えておく
9	青年期の心理について、自己を振り返りながら学ぶ	講義	自分の思春期や進路決定について考えておく
10	他動物とヒトの比較を通じて、心の進化について学ぶ	講義	人間以外の生物の心について考えておく
11	心理学研究法と統計法について、基礎的な知識を学ぶ	講義	心理学の研究の仕方について調べておく
12	多様な文化における人の心のあり方を考える	講義	日本以外の文化における心について考えておく
13	パーソナリティという概念とその測定法を理解する	講義	自分自身の性格について考えてみたり、他の人から意見を聞いたりしておく
14	心の病気について学び、治療と予防を理解する	講義	心の病気に関する社会的な問題を調べておく
15	授業を通して得た知識を振り返りながら心理学の歴史を学び、統合的な理解を目指す	筆記試験講義	これまでの授業の知識を復習しておく

■受講上の注意

授業中にできる限り意見を発表すること。常に自分自身に照らし合わせながら授業をきくこと。授業の知識を将来どのように活かすことができるか、考えながら授業に臨むこと。

■成績評価の方法

① 終講試験　70%　② ミニッツ・ペーパー　30%

■テキスト参考書など

毎回資料を配布する

■備考

■実務経験

情報科学

講師：小牧 祥太郎

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

昨今の医療・福祉現場においてコンピューターの使用は拡大しており、基本的な操作が行える事が必須のものとなっている。
本講義においては、パーソナルコンピューターによる代表的なソフトウェア（Microsoft Office）の操作が行える技術を身に付けた後、医療・福祉データの活用につながる統計処理方法について学ぶことを目標とする。
また、コンピューター使用を通して、医療・福祉現場においても必要となる論理的思考能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コンピューターの挙動を理解し、Windowsの基本操作に慣れる。 学内で使用するアプリケーション（Webアプリを含む）の操作方法の理解を深める。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
2	クラウドを使用したテータの管理方法を学ぶ。 Microsoft Wordの操作を学ぶ。 （文字入力、文字装飾、箇条書き、段落番号など）	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
3	Microsoft Wordの応用操作を学び、実用的な文章（公的文章など）の作成を行う。 （応用操作として、図・表の挿入など）	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
4	Microsoft Powerpointの基本的な操作を学ぶ。 （文字、図等の挿入、スライドの追加、アニメーション等）	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
5	Microsoft Powerpointにてプレゼンテーション資料（自己紹介）の作成を行う。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
6	Microsoft Powerpointにてプレゼンテーション資料（自己紹介）の作成を行う。 Webメールの基本を学び、送受信を習得する（メールにプレゼンテーション資料を添付する）。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
7	MicrosoftPowerpointで作成した自己紹介資料を用いてプレゼンテーションを行う。 また、発表に対してインタラクティブなウェブサイトを活用し、質疑応答を行う。	講義・演習	作成した資料を用いて、自己紹介を実施してもらいます。
8	Microsoft Excelの基本操作を学ぶ。 （セルの操作、列・行の調整、オートフィルを活用したカレンダーの作成など）	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
9	Microsoft Excelでのデータ入力・管理、関数を使用したデータ集計について学ぶ。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
10	Microsoft Excelの書式調整を行い、審美性の高い表とデータからグラフ作成を学ぶ。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
11	Microsoft Excelを用い、ヒストグラム等を作成し模擬データの概要を捉える。また相関係数の算出や集団の比較について学ぶ。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
12	Microsoft Excelを用い、模擬データより、平均値や分散、標準偏差などの基本統計量の算出について学ぶ。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
13	Microsoft Officeの各ソフトの操作方法の復習を行う。 （主にMicrosoft Word、Microsoft Excel） プログラミングを通して、倫理的な思考を学ぶ（Code.org®を用いて）。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
14	単位認定試験の説明、模擬試験（終講試験と同等水準の簡略版）の実施。	講義・演習	コンピューター室にて実施する。
15	終講試験・解説	講義・演習	コンピューター室にて実施する。

■受講上の注意

適宜成果物を保存・提出出来るように、学内グループウェア（Teams）のパスワードを必ず控えておくこと。

■成績評価の方法

終講試験（課題作成） 100%

■テキスト参考書など

適宜、資料の配布を行う。
（基本的には、コンピューター上でデータ資料を参照する）

■備考

■実務経験

国際文化論

講師：義山法男、杉戸 綾香

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

アメリカと中国という超大国の間で生き抜くために、日本にとって東南アジア諸国の重要性は高まっている。しかし、東南アジア諸国や、これらの国のほとんどが加盟するASEAN(東南アジア諸国連合)についての知識が、日本人に広まっているとは言えない。東南アジア諸国の現代史や日本との関わり、ビジネスや介護人材との関係性について理解する。また国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展とは何かを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	東南アジア：ASEANの国々「日本との歴史」 歴史を通して日本と東南アジアの関係性が理解できる	講義・演習	「日本との歴史」において東南アジアとの関係性を深める
2	東南アジア：ASEANの国々「東南アジア各国の理解」 各国の地理、歴史、経済、国民、文化などについて理解する	講義・演習	東南アジアの各国の特徴や実態についてイメージできる
3	東南アジア：ASEANの国々「アジアの一員としてのグローバリズム」 「アジアの一員としてアジアの多様な国と付き合っていく」ための基本的な理解ができる	講義・演習	現在日本の東南アジア進出の実態を把握することができる
4	東南アジア：ASEANの国々「介護とのつながり」 外国人介護人材受入れの仕組みである、特定活動「EPA（経済連携協定）」、在留資格「介護」、技能実習、特定技能について理解する	講義・演習	各制度における外国人介護人材受け入れの状況を把握する
5	政府開発援助（ODA） 開発途上国の社会・経済の開発を支援するための、政府をはじめ、国際機関、NGO、民間企業などさまざまな組織や団体について理解する	講義・演習	技術協力、有償資金協力、無償資金協力という3つの援助手法を理解する
6	開発途上国への技術協力 開発途上地域等の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定について理解する	講義・演習	国際協力の実際を知り、自分にできる国際協力について考える
7	これまでの異文化体験を振り返り共有する①	演習	テーマを決定し、計画書を作成する
8	これまでの異文化体験を振り返り共有する②	演習	テーマを決定し、計画書を作成する
9	リサーチ①	演習	グループごとの計画に沿ってリサーチし、発表用の原稿とPPTを作成する
10	リサーチ②	演習	グループごとの計画に沿ってリサーチし、発表用の原稿とPPTを作成する
11	リサーチ③	演習	グループごとの計画に沿ってリサーチし、発表用の原稿とPPTを作成する
12	リサーチ④	演習	グループごとの計画に沿ってリサーチし、発表用の原稿とPPTを作成する
13	リハーサル①	演習	発表準備
14	リハーサル②	演習	発表準備
15	発表	総合発表・演習	発表内容において評価する

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと。積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないようにすること。

■成績評価の方法

① 発表評価　50%　② 終講試験　40%　③ 授業への参加態度　10%

■テキスト参考書など

資料プリントは適宜配布する

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

介護の基本A

講師：日高 清一郎

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護の成り立ちを理解できる	講義	介護福祉に関する歴史年表について調べておこと
2	介護の見方・考え方の変化を理解できる	講義・GW	確認テストの実施
3	介護の専門性について理解できる	講義・GW	日本介護福祉士会倫理綱領を読んでおくこと 確認テストの実施
4	利用者に合わせた生活支援について理解できる	講義・GW	介護について関連ある職種を調べておくこと
5	心理的アプローチへの支援について理解できる	講義・GW	アルツハイマー型認知症について調べておくこと
6	「自立」と「自律」に向けた支援について理解できる	講義・GW	アセスメントの必要性について調べておくこと
7	介護サービスのあり方について理解できる	講義	確認テストの実施
8	介護職が行う生活支援について理解できる	講義・GW	生活援助とその意義について調べておくこと
9	相談援助とその意義、自己覚知の必要性を理解できる	講義・GW	相談援助の必要性について調べておくこと
10	相談援助とその意義、自己覚知の必要性を理解できる	講義・GW	自身の性格（長所・短所）について考えておくこと
11	ノーマライゼーション,QOLの考え方、虐待の定義、内容、虐待防止法の理解ができる	講義・GW	確認テストの実施
12	ノーマライゼーション,QOLの考え方、虐待の定義、内容、虐待防止法の理解ができる	講義・GW	終講試験課題レポートの提出
13	介護におけるICFについて理解できる	講義・GW	ICFモデルにおける用語の定義を調べておくこと
14	介護実践におけるリハビリテーションの考え方について理解できる	講義	ICFにおけるリハビリテーションについて調べておくこと
15	終講試験及びまとめ	筆記試験・講義	これまでの講義内容についての復習を行うこと

■受講上の注意

授業開始時間に遅れないこと。主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

① 終講試験 80%　② レポート 10%　③ 確認テスト　10%

■テキスト参考書など

3介護の基本Ⅰ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

パソコン、パワーポイントを教室に準備する　資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護の基本B

講師：田中 安平

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。
[授業終了時の達成課題（到達目標）]
①介護福祉士を取り巻く状況が理解できる。
②社会福祉士法及び介護福祉士法について理解できる。
③介護における専門職能団体の活動と生涯研修制度の意義と目的について理解し・評価できる。
④介護従事者の職業倫理について配慮できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護福祉士の活動の場と役割	講義	毎回、次回講義範囲を一読しておくこと
2	人生の最終段階の支援 災害時の支援	講義	「その人らしさ」とは何か、具体的に理解できること。概念整理。
3	社会福祉士法及び介護福祉士法の成立と改正の意義	講義	プロの介護福祉士になるために求められる自己研鑽がなぜ必要か理解する
4	介護福祉士養成教育の意義と期待される介護福祉士の理解	講義	求められる介護福祉士像の実態についてイメージできる
5	チームリーダーに求められる技能を理解できる	講義・小テスト①	チームリーダーに求められる技能を身につける
6	職能団体としての日本介護福祉士会とその他の団体	講義・小テスト②	職能団体の実施している研修等への参加の必要性を理解できる
7	介護実践における介護の倫理	講義	専門性毎に倫理はあることを理解する 疑問点は質問し、講義へ積極的に参加する
8	介護従事者の職業倫理（事例にみる展開：KJ法の体験）	グループワーク	ブレストとKJ法による事例展開方法を体験する
9	介護従事者の職業倫理（事例にみる展開：KJ法の体験）	グループワーク・小テスト③	倫理の多様性をブレストとKJ法による事例展開方法から体験する
10	概念から倫理の本質について理解する	講義・グループワーク	倫理・道徳・社会規範など、医の倫理も含め様々な倫理観の有り様を知る
11	介護の倫理を理解する	講義・小テスト④	テストで知識の振り返りを図り、思考を確実にする
12	倫理的判断と介護独自の専門性について理解できる	講義・演習	介護独自の専門性のなかに介護の倫理が含まれていることを理解できる
13	介護福祉の本質（ニーズについて理解できる）	講義	日本介護福祉士会の倫理綱領からニーズ・デマンド等について違いを認識できる
14	プライバシーの保護と介護の倫理	講義	生活モデルと医学モデルの差異を理解する
15	終講試験およびまとめ	講義・筆記試験	

■受講上の注意

毎時間、講義始めまでにはテキストを一読しておくこと（予習）。疑問等に関する質問は講義時間内でも受け付けるが、私語はしないこと。

■成績評価の方法

① 終講試験 70%　② 演習参加状況等を考慮する 30%

■テキスト参考書など

3介護の基本Ⅰ「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

資料等、準備物品は適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護の基本C

講師:三原 めぐみ

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生活を幅広くとらえ、生活の基本機能を理解する	講義	テキストを読んでくる
2	ライフサイクルの変化と家庭機能の役割について学ぶ	講義	テキストを読んでくる
3	社会や地域の機能や役割を理解し、生活支援への関係を学ぶ	講義	テキストを読んでくる
4	私たちの生活について理解する。生活とは何かについて学ぶ	講義	「私たちの生活の理解」の学習ポイントを確認しておく
5	生活にとって大切な要素について学び、生活の特性について理解する	講義・GW	テキストを読んでくる 自分にとっての住み慣れた場所とはどこか考えてくる
6	介護福祉士を必要とする高齢者の暮らしを考える①	講義・GW	小テスト テキストの事例を読んでくる 自分の意見を述べること、他者の意見に傾聴・共感する姿勢を持つこと
7	介護福祉を必要とする高齢者の暮らしを考える②	講義・GW	テキストの事例を読んでくる
8	介護福祉を必要とする高齢者の暮らしを考える③	講義・GW	GWの発表
9	介護福祉を必要とする障害者の暮らしを考える①	講義・GW	テキストの事例を読んでくる
10	介護福祉を必要とする障害者の暮らしを考える②	講義・GW	テキストの事例を読んでくる
11	介護福祉を必要とする障害者の暮らしを考える③	講義・GW	GWの発表
12	その人らしさやその多様性、生活ニーズについて理解する	講義	テキストを読んでくる
13	私たち自身の生活、介護を必要とする人のしづらさの視点について考える	講義・GW	テキストを読んでくる
14	生活のしづらさを解消するための介護福祉士の視点と家族介護者への支援について理解する。	講義	小テスト テキストを読んでくる
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	講義全体の復習と試験に向けてポイントをしっかり押さえる。

■受講上の注意

常に学生自身の生活と比較する姿勢を持ち、授業に取り組む。授業において分からない事は質問すること。GWでは、自分の意見を表現すること。また他者の意見をしっかり傾聴・共感すること。

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②小テスト　10%　③提出物　10%

■テキスト参考書など

4介護の基本Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
2社会の理解 「介護福祉士養成講座編成委員会」中央法規

■備考

必要に応じて、適宜資料を配布する

■実務経験

介護の基本D

講師:川畑 裕司

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。
介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携などフォーマル・インフォーマルな支援について理解する。
多職種協働による介護を実践する為に保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	地域共生社会において、介護福祉を必要とする人に対して提供されるサービスの概況や介護保険制度を理解する	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
2	高齢者のためのフォーマルサービスを理解する①(居宅サービス)	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
3	高齢者のためのフォーマルサービスを理解する②(居宅サービス)	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
4	高齢者のためのフォーマルサービスを理解する③(居宅サービス)	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
5	高齢者のためのフォーマルサービスを理解する④(居宅サービス)	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
6	高齢者のためのフォーマルサービスを理解する⑤(施設サービス・地域密着型サービス)	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
7	高齢者のためのフォーマルサービスを理解する⑥(地域密着型サービス)	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
8	高齢者のためのフォーマルサービスを理解する⑦(地域密着型サービス)	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
9	地域共生社会において、介護福祉を必要とする人に対して提供されるサービスの概況や障害者総合支援法を理解する	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
10	障害者のためのフォーマルサービスを理解する①	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
11	障害者のためのフォーマルサービスを理解する②	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
12	生活を支えるインフォーマルサービスを理解する	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
13	地域連携にかかわる機関の理解①	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
14	地域連携にかかわる機関の理解②	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと　積極的に演習では発言をすること　忘れ物をしないようにすること　ポイントなどメモすること

■成績評価の方法

①毎回、講義の最後に小テストを実施し、振り返りを行い、ポイントをおさえる。20%　②終講試験　80%

■テキスト参考書など

4介護の基本Ⅱ 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

資料プリントは随時配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護の基本E

講師：義山法男

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	セーフティマネジメントの考え方を理解し安全の確保を組織全体で取り組む重要性を学ぶ	講義	テキストを読んでくる
2	リスクとリスクマネジメント、過誤、事故苦情について理解する	講義	テキストを読んでくる
3	身体拘束について理解する	講義	テキストを読んでくる
4	福祉サービスに求められる安全・安心につながる取り組みについて理解する	講義	テキストを読んでくる
5	ヒヤリハット、事故報告書の必要性や記入方法について理解できる	講義	テキストを読んでくる
6	事故防止のための対策について対応の仕方、事故原因の分析、組織体制について理解する	講義	テキストを読んでくる
7	生活の場の安全管理について予防や対策について考える	講義	テキストを読んでくる
8	住んでいる地域のリスクと防災状況を知る①	講義・演習	防災マップを準備
9	住んでいる地域のリスクと防災状況を知る②	講義・演習	防災マップを準備
10	防火、防災訓練計画を作成することができる①	講義・演習	レポート課題
11	防火、防災訓練計画を作成することができる②	講義・演習	レポート課題
12	介護福祉職に必要な感染に関する知識について学ぶ	講義	テキストを読んでくる
13	感染の標準予防策について理解できる	講義	テキストを読んでくる
14	感染症発生時の対応について理解できる	講義	テキストを読んでくる
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	

■受講上の注意

忘れ物の無いようにし、主体的に講義に臨むこと
ワークは積極的に取り組むこと

■成績評価の方法

① 終講試験　60%　② レポート・課題　40%

■テキスト参考書など

4介護の基本Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
図解でスッキリ！「介護福祉士テキスト」ナツメ社

■備考

理解度を見るため、適宜小テストを行う　資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護の基本F

講師：西田 一世

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。
[授業修了時の到達目標]
①介護における介護従事者の健康管理の意義と目的を理解する。
②介護における介護従事者に必要な知識と技術を理解し、実践できる。
③介護における介護従事者の安心して働ける環境づくりについて学ぶ。
④法規の面から労働安全対策と安全衛生管理体制を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業概要を理解できる	講義	介護職にとっての健康とは何かを考えておくこと
2	介護を仕事として捉えることができる	講義・GW	介護の仕事と他産業の仕事の違いを踏まえておくこと
3	介護職の離職の背景を理解できる	講義・GW	介護職が勤務する事業所や施設の特徴を理解しておくこと
4	職場において、介護職が抱える身体的、精神的負担の現状を理解できる	講義・GW	腰痛、ストレスについて予防方法を調べておくこと
5	職場における燃え尽き症候群の予防方法について理解できる	講義・GW	ロールプレイング
6	ストレスケアとストレスチェックについて理解できる	講義・GW	ストレスチェック制度について予習をしておくこと
7	まとめ（レポート提出）	講義	前半要点整理
8	労働基準法の概要を理解できる	講義・GW	労働基準法が何故存在するのか趣旨を予習しておくこと
9	労働基準法と介護職の関係について理解できる	講義・GW	労働基準法が何故存在するのか趣旨を予習しておくこと
10	労働安全衛生法の概要を理解できる	講義・GW	産業医、衛生委員会、健康診断について予習しておくこと
11	労働安全衛生法と介護職の関係について理解できる	講義・GW	産業医、衛生委員会、健康診断について予習しておくこと
12	介護事業所の経営の仕組みと、給料の支払方法について理解できる	講義・GW	介護職員処遇改善加算の要旨について予習しておくこと
13	採用から退職までの仕組みについて理解できる	講義・GW	
14	まとめ（レポート提出）	講義	後半要点整理
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

本講義はグループワークを中心に行います。
討論に正解や間違いなどはありません。積極的に発言してください。

■成績評価の方法

① 終講試験　60%　② レポート　40%

■テキスト参考書など

4介護の基本Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
知っておきたい働くときのルールについて　厚生労働省　労働基準局　監督課

■備考

適宜プリントを配布する

■実務経験

本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による授業である

コミュニケーション技術A

講師：義山法男

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。
[授業修了時の到達目標]
・本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術が身に付くようにする。
・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション技法の基本を表現できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護におけるコミュニケーションの意義と目的、展開過程が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
2	介護福祉職のコミュニケーション支援の役割や対象、状況が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
3	援助関係の特徴が理解できる（相互作用・援助関係・自己開示）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
4	援助関係を構築するための原則が理解できる（バイスティックの7原則）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
5	介護における援助関係を意識したコミュニケーションが理解できる（記録・会議）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
6	コミュニケーション態度に関する基本技術が理解できる（傾聴・質問）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
7	コミュニケーション態度に関する基本技術が理解できる（受容・共感・距離）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
8	コミュニケーションの基本技術が理解できる①	講義・演習	演習をとおしてコミュニケーション力の理解を深める
9	コミュニケーションの基本技術が理解できる②	講義・演習	演習をとおしてコミュニケーション力の理解を深める
10	言語コミュニケーションについて理解ができる（ワーキングメモリー）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
11	言葉以外を使ったコミュニケーションについての理解ができる（非言語・淳言語）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
12	目的別のコミュニケーション技術について理解ができる（動機づけ・フィルター・リフレーミング）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
13	関連するコミュニケーション技術について理解ができる（集団・家族）	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
14	コミュニケーション技術Aに関するポイントなどを総合的に理解できる	講義・演習	国家試験問題のコミュニケーション技術に頻出するポイントや専門用語をおさえる
15	終講試験とまとめ	筆記試験・講義	テキストを読んで復習しておくこと

■受講上の注意

事前準備（予習）として、授業に係わる項目についてテキストを読んでおく
コミュニケーション技術の授業のため、積極的に発言・表現する

■成績評価の方法

① 終講試験 80%　② 授業への参加態度 20%

■テキスト参考書など

5コミュニケーション技術 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する
プロジェクター、スクリーンを適宜使用する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

コミュニケーション技術B

講師：義山法男

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。
［授業修了時の到達目標］
・利用者の特性に応じたコミュニケーションの基本的対応ができる。
・介護におけるチームワークを促進するコミュニケーション技術を使用できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コミュニケーション障害への対応の基本が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
2	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
3	視覚障害のある人への支援が理解できる①	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
4	視覚障害のある人への支援が理解できる②	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
5	聴覚障害のある人への支援が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
6	構音障害のある人への支援が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
7	失語症の人への支援が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
8	認知症、うつ病・抑うつ状態、統合失調症の人への支援が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
9	知的障害、発達障害、高次脳機能障害のある人への支援が理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
10	チームにおけるコミュニケーションについて理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
11	報告・連絡・相談、記録の技術について理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
12	会議・議事進行・説明の技術について理解できる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
13	コミュニケーション技術Bに関するポイントなどを総合的に理解できる①	講義・演習	国家試験問題のコミュニケーション技術に頻出するポイントや専門用語をおさえる
14	コミュニケーション技術Bに関するポイントなどを総合的に理解できる②	講義・演習	国家試験問題のコミュニケーション技術に頻出するポイントや専門用語をおさえる
15	終講試験とまとめ	筆記試験・講義	

■受講上の注意

事前準備（予習）として、授業にかかわる項目についてテキストを読んでおく
コミュニケーション技術の授業のため、積極的に発言・表現する

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②授業への参加態度　20%

■テキスト参考書など

5コミュニケーション技術 「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

資料は適宜配布する
プロジェクター、スクリーンを適宜使用する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

生活支援技術A

講師：三原めぐみ

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

「授業の目的・ねらい」
「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、生活支援の考え方、ICFの視点にもとづくアセスメントを学ぶ。安眠を促す介助の技法（ベッドメイキング）、自立に向けた身じたくの介護の技術と知識を習得する。
「授業修了時の達成課題」
・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援（身じたく）の基本的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる。
・ベッドメイキングについて学習し技術を身につけることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生活支援の理解 生活支援の基本的な考え方について理解できる	講義	自分がどのような生活をしているかを考えてくる・ 事前にテキストを読んでおくこと
2	生活支援の理解 生活支援と介護過程、生活支援とチームアプローチについて理解できる	講義	事前にテキストを読んでおくこと
3	介護実習演習の受け方、介護実習室の使用法について理解する	講義・演習	実習服・実習靴を準備しておく
4	生活環境の整備、ベッドメイキングができる	演習	事前にテキストを読んでおくこと
5	まとめ・実技試験（ベッドメイキング）	演習実技試験	実技（ベッドメイキング）の復習をしておくこと
6	自立に向けた身じたくの介護 身じたくの意義と目的を理解し、利用者の状態に応じた介護のポイントが理解できる	講義	事前にテキストを読んでおくこと
7	自立に向けた身じたくの介護 整容の意義と介助方法を理解し、実践できる①（洗顔・清拭・整髪の介助）	演習・講義	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
8	自立に向けた身じたくの介護 整容の意義と介護方法を理解し、実践できる②（ひげ剃り、爪の手入れ・耳・化粧）	演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
9	自立に向けた身じたくの介護 口腔ケアの目的と効果と介助方法を理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと 歯ブラシを持参し、レスポンスシートの提出
10	自立に向けた身じたくの介護 口腔ケアの効果と介助方法を実践できる	演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
11	自立に向けた身じたくの介護 衣服の着脱の目的と介助方法を理解し、実践できる①	講義・演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
12	自立に向けた身じたくの介護 衣服の着脱の目的と介助方法を理解し、実践できる②	講義・演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
13	自立に向けた身じたくの介護 衣服の着脱の目的と介助方法を理解し、実践できる③	演習実技試験	実技（衣服の着脱）の復習をしておくこと
14	自立に向けた身じたくの介護 身じたくにおける他職種との連携について理解できる	講義	事前にテキストを読んでおくこと
15	終講試験とまとめ	講義筆記試験	テキストを読んで復習をしておくこと

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと。積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないようにすること。

■成績評価の方法

①終講試験　60%　②レポート　20%　③実技テスト　20%

■テキスト参考書など

6生活支援技術Ⅰ・7生活支援技術Ⅱ 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

実習服、実習靴を持参　資料プリントは適宜配布する

■実務経験

生活支援技術B

講師:徳田 春光

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にも基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
・利用者の自立に向けた移動の意義と目的について理解し実践的技術を身につけることができる。
・福祉用具を活用する意義やその目的を理解すると共に対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。
・安全で的確な移動、移乗の介護の技法を理解し行うことができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自立に向けた移動の介護 自立した移動のあり方や移動・移乗の介護、ボディメカニクスについて理解できる	講義・演習	事前にテキストを読んでおくこと
2	自立に向けた移動の介護 ベッド上での移動の留意点と方法を理解し、実践できる(上方移動・水平移動・側臥位・安楽な体位)	講義・演習	事前にテキストをよんでおくこと レスポンスシートの提出
3	自立に向けた移動の介護 仰臥位から端座位、端座位から立位の介助が実践できる	演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
4	自立に向けた移動の介護 安楽な姿勢、体位を保持する介助の目的を理解し、実践できる	講義・演習	テキストを読んでおくこと
5	自立に向けた移動の介護 車いす名称・操作方法・構造を理解し車いす走行が実践できる	講義・演習	事前にテキストを読んでおくこと 屋外演習(帽子・水分持参) レスポンスシートの提出
6	自立に向けた移動の介護 車いす名称・操作方法・構造を理解し車いす走行が実践できる	演習	事前にテキストを読んでおくこと 屋外演習(帽子・水分持参) レスポンスシートの提出
7	自立に向けた移動の介護 車いすへの移乗介助が実践できる	講義・演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
8	自立に向けた移乗の介護 車いすへの移乗介助が実践できる	演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
9	自立に向けた移動の介護 歩行介助の留意点と介助方法を理解し、実践できる	演習	事前にテキストを読んでおくこと 屋外演習(帽子・水分持参) レスポンスシートの提出
10	福祉用具の意義 福祉用具の定義と福祉用具を使用する意味を理解することができる	講義	事前にテキストを読んでおくこと
11	福祉用具の意義 福祉用具の種類と適切な福祉用具を選ぶための視点について理解できる	講義・演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
12	福祉用具の意義 介護保険法と障害者総合支援法における福祉サービスを理解することができる	講義・演習	事前にテキストを読んでおくこと レスポンスシートの提出
13	実技試験(移動・移乗・歩行)	実技試験	実技(移動・移乗)の復習をしておくこと
14	実技試験(移動・移乗・歩行)	実技試験	実技(移動・移乗)の復習をしておくこと
15	終講試験およびまとめ	筆記試験・講義	テキストを読んで復習をしておくこと

■受講上の注意

講義中は私語をしないこと。積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないようにすること。

■成績評価の方法

①終講試験　70%　②レポート　10%　③実技テスト　20%

■テキスト参考書など

6生活支援技術Ⅰ「介護福祉士養成講座編成委員会」中央法規

■備考

実習服、実習服を持参　資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

生活支援技術C

講師：三原めぐみ、横山 笑子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、自立に向けた食事の介護の技術と知識を習得する。家事の意義と目的を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自立に向けた家事の介護 調理の基本を理解する。バランスのとれた食事について理解する	講義	事前にテキストを読んでくること 課題レポート
2	自立に向けた家事の介護 食品の管理・食中毒の予防について考える	講義	事前にテキストを読んでくること
3	調理実習	演習	事前にテキストを読んでくること 調理実習レポートを提出
4	調理実習	演習	事前にテキストを読んでくること 調理実習レポートを提出
5	自立に向けた家事の介護 病態別の栄養管理について理解する	講義	事前にテキストを読んでくること
6	自立に向けた家事の介護 調理実習に向けた献立の作成と調理方法を理解する	講義	事前にテキストを読んでくること
7	調理実習	演習	事前にテキストを読んでくること 調理実習レポートを提出
8	調理実習	演習	事前にテキストを読んでくる 調理実習レポートを提出
9	自立に向けた食事の介護① 食事の意義と目的を理解する。	講義・GW	事前にテキストを読んでくる
10	自立に向けた食事の介護② 利用者の心身の状態に応じた工夫や環境づくり、基本原則を理解できる。	講義・GW	事前にテキストを読んでくる
11	自立に向けた食事の介護③ 味や食の楽しみを考慮した食環境と、食べやすい食器・器具の選択を理解できる。	講義・・GW	事前にテキストを読んでおくこと
12	自立に向けた食事の介護④ 利用者の心身の状態・状況に応じた食事の介護が実践できる①	演習	事前にテキストを読んでおくこと 水分・お弁当等を持参、記録ノートを提出
13	自立に向けた食事の介護⑤ 利用者の心身の状態・状況に応じた食事の介護が実践できる②	演習	事前にテキストを読んでおくこと 水分・お弁当等を持参、記録ノートを提出
14	自立に向けた食事の介護⑥ 食事介助における多職種との連携について理解できる。	講義・GW	事前にテキストを読んでくる
15	終講試験・まとめ	試験・講義	演習の内容も含め、復習すること

■受講上の注意

積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないこと
記録用のノートを準備すること

■成績評価の方法

①終講試験（筆記）80%　②提出物・授業態度等20%

■テキスト参考書など

6生活支援技術Ⅰ・7生活支援技術Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
参考資料を必要に応じて、配布

■備考

実習服・実習靴・記録用ノート
調理実習の際、エプロン・三角巾

■実務経験

生活支援技術D

講師:徳田 春光

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護の技術と知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴と清潔保持の目的を理解できる。	講義	テキストを読んでくる
2	安全・的確な入浴の介助技法が実践できる①(一般浴シャワー浴)	講義・演習	テキストを読んでくる 水着(濡れてもいいもの)等を準備 記録ノートの提出
3	安全・的確な入浴の介助技法が実践できる②(特殊浴槽・リフト浴)	講義・演習	テキストを読んでくる 水着(濡れてもいいもの)等を準備 記録ノートの提出
4	安全・的確な入浴の介助技法が実践できる③(特殊浴槽・リフト浴)	講義・演習	テキストを読んでくる 水着(濡れてもいいもの)等を準備 記録ノートの提出
5	安全・的確な入浴の介助技法が実践できる④(全身清拭)	講義・演習	テキストを読んでくる 記録ノートの提出
6	安全・的確な入浴の介助技法が実践できる⑤(部分浴・洗髪)	講義・演習	テキストを読んでくる 記録ノートの提出
7	入浴・清潔保持の介助における他職種の連携について理解できる。	講義	テキストを読んでくる
8	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的を理解できる。	講義	テキストを読んでくる
9	安全・的確な排泄介助技法が実践できる①(トイレでの排泄介護)	講義・演習	テキストを読んでくる 記録ノートの提出
10	安全・的確な排泄介助技法が実践できる②(ポータブルトイレ)	講義・演習	テキストを読んでくる 記録ノートの提出
11	安全・的確な排泄介助技法が実践できる③(おむつ交換)	講義・演習	テキストを読んでくる 記録ノートの提出
12	安全・的確な排泄介助技法が実践できる④(おむつ交換)	講義・演習	テキストを読んでくる 記録ノートの提出
13	安全・的確な排泄介助技法が実践できる⑤(差し込み便器・尿器)	講義実技試験	実技の復習をしておくこと
14	排泄の介助における他職種の連携について理解できる	講義	テキストを読んでくる
15	終講試験・まとめ	筆記試験講義	全講義の復習をしておく

■受講上の注意

積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないこと。記録用のノートを準備すること。

■成績評価の方法

①終講試験(筆記)60%　②　実技試験　20%　③記録ノート　20%

■テキスト参考書など

7生活支援技術Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
必要に応じて資料配布

■備考

実習服・実習靴

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

生活支援技術E

講師:鶴東 章子、義山法男

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

「授業の目的・ねらい」
「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、自立に向けた家事の介護(洗濯・裁縫・清掃・買い物・家庭経営・家計管理)の技術と知識を習得する。
「授業修了時の達成課題」
・被服生活の意義と目的を理解し、利用者個々人にとって適切な被服管理が出来るような知識と技術を身に付けることができる。
・生活の継続性を支援する観点から対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行なうことを支援するための基本的な知識・技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	被服生活の意義と目的について理解できる	講義	テキストを読んでおくこと
2	被服の素材と特徴について理解できる①	講義・演習	レポート提出
3	被服の素材と特徴について理解できる②	講義	振り返り①
4	被服と皮膚の衛生について理解できる	講義・演習	レポート提出
5	裁縫の基礎的技術(補修)を習得する①	演習	振り返り② グループごとに裁縫道具・アイロン・アイロン台を準備する
6	裁縫の基礎的技術(補修)を習得する②	演習	授業中説明したところまで完成させておく
7	被服の種類・素材別の洗濯方法について理解できる	講義	衣服の取り扱い表示を調べる
8	しみ抜きの方法を理解し、実践できる	演習	レポート提出
9	衣服の収納管理について理解し、実践できる	講義・演習	振り返り③
10	まとめと確認テスト	講義・演習	実技試験
11	自立した家事、自立に向けた家事の介護(調理)についての基本知識を理解することができる	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
12	自立に向けた家事の介護(洗濯、そうじ・ごみ捨て)についての基本知識を理解することができる	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
13	自立に向けた家事の介護(衣類・寝具の衛生管理、買い物、家庭経営、家計管理)についての基本知識を理解することができる	講義・演習	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
14	自立に向けた家事の介護(悪質商法・クーリングオフ制度)、家事の介護における多職種との連携についての基本知識を理解することができる	講義	予習として、テキストの該当する項目を読んでおくこと
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	テキストを読んで復習をしておくこと

■受講上の注意

事前準備・講義の予習をする。忘れ物のないよう、主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

①終講試験　60%　②レポート・作品　20%　③実技テスト　20%

■テキスト参考書など

6生活支援技術Ⅰ「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

生活支援技術F

講師:全教員

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

習得した介護技術をもって、対象の身体状態や生活状況に応じた介護技術、個人の特徴に合わせた介護方法の工夫について考え、事例を展開することで、個人に応じた支援方法の必要性について理解することができる。また、これまで習得した介護技術をどのように対象者の生活の中に取り入れていくのか考えることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開①	講義・演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
2	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開①	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
3	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開①	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える 事例①実技テスト
4	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開①	講義・演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える レポート提出
5	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開②	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
6	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開②	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
7	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開②	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える 事例②実技テスト
8	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開②	講義・演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える レポート提出
9	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開③	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
10	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開③	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
11	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開③	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える 事例③実技テスト
12	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。事例展開③	講義・演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える レポート提出
13	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。最終事例	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
14	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。最終事例	演習	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える
15	対象の生活全般を見て、必要な支援から介護技術の活用を考える。最終事例	実技試験	これまでに習得した介護技術について、状況に合わせた支援方法を考える レポート提出

■受講上の注意

積極的に演習に取り組むこと。忘れ物をしないこと。常にメモを取れるようにしておくこと。

■成績評価の方法

①実技試験　70%　②レポート提出・授業への参加状況　30%

■テキスト参考書など

6生活支援技術Ⅰ、7生活支援技術Ⅱ、8生活支援技術Ⅲ「介護福祉士養成講座編成委員会」中央法規
必要に応じて資料配布

■備考

実習服、実習靴

■実務経験

生活支援技術G

講師:横山 尚宏、戌亥 啓一、原田 智晃

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
・介護の分野において、安全に介助をすることは必須である。介護福祉士は自分の体に極力負担をかけず、寝返りや起き上がり、立ち上がり、トランスファーなどの動作を介助しなければならない。また、動作の際には全介助ではなく、最大限に対象者様の力を発揮させる必要もある。本講義では高齢者の特性を学び、トランスファー技術などを習得することを目的とする。
・住まいの多様性を理解すると共に生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。
・言語、聴覚障害の対象者の能力を活用・発揮し自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	運動機能に応じた介護 高齢者の特性や寝返り、起き上がりの介助方法を学ぶ	講義・演習	高齢者の特性を事前に学習しておく。授業資料は事前に目を通す 動きやすい服装を準備
2	前回学んだ寝返り、起き上がりの解除方法を復習し、立ち上がりやトランスファー技術を学習する	講義・演習	高齢者の特性を事前に学習しておく。授業資料は事前に目を通す 動きやすい服装を準備
3	前々回、前回の復習と歩行介助の方法を習得する	講義・演習	高齢者の特性を事前に学習しておく。授業資料は事前に目を通す 動きやすい服装を準備
4	肢体不自由に応じた介護	講義・演習	高齢者の特性を事前に学習しておく。授業資料は事前に目を通す 動きやすい服装を準備
5	多職種理解(理学療法士と介護職の連携)	講義	動きやすい服装を準備
6	自立に向けた居住環境の整備－居住整備の意義と目的／生活空間と介護	講義	事前配布資料を講義前までに予習
7	自立に向けた居住環境の整備－居住環境のアセスメント	講義・演習	事前配布資料を講義前までに予習
8	自立に向けた居住環境の整備－安心で快適な生活の場づくり／他職種の役割と協働	講義・演習	事前配布資料を講義前までに予習
9	事例検討を通して快適な生活の場づくりを理解する/福祉用具の意義を理解する	講義・GW	GWに積極的に参加すること
10	多職種理解(理学療法士と介護職の連携)	講義	
11	聴覚障害について理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する
12	聴力検査・補聴器などについて理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する
13	コミュニケーションの補償について理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する
14	言語障害、重複障害のコミュニケーションについて理解を深める	講義	配布資料の要点を確認する
15	多職種理解(言語聴覚士と介護職の連携)	講義	

■受講上の注意

GWや演習では積極的に発言をするように。

■成績評価の方法

① 終講試験 100%

■テキスト参考書など

6生活支援技術Ⅰ、8生活支援技術Ⅲ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

終講試験は授業終了後、別日に設ける
適宜プリント資料を配布する

■実務経験

本科目は、作業療法士・言語聴覚士・理学療法士として実務経験のある教員による授業である

生活支援技術H

講師：潟永 しおみ

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	視覚障害に応じた介護を理解する（1）	講義・演習	視覚障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
2	視覚障害に応じた介護を理解する（2）	講義・演習	視覚障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える（レポート提出）
3	心臓機能障害に応じた介護を理解する	講義・演習	心臓機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
4	呼吸器機能障害に応じた介護を理解する（1）	講義・演習	呼吸機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
5	呼吸器機能障害に応じた介護を理解する（2）	講義・演習	呼吸機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
6	腎臓機能障害に応じた介護を理解する（1）	講義・演習	腎臓機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
7	腎臓機能障害に応じた介護を理解する（2）	講義・演習	腎臓機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える（レポート提出）
8	膀胱・直腸機能障害に応じた介護を理解する（1）	講義・演習	膀胱・直腸機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
9	膀胱・直腸機能障害に応じた介護を理解する（2）	講義・演習	膀胱・直腸機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
10	小腸機能障害に応じた介護を理解する	講義・演習	小腸機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
11	HIVによる免疫機能障害に応じた介護を理解する	講義・演習	HIVによる免疫機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
12	肝臓機能障害に応じた介護を理解する	講義・演習	肝臓機能障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
13	重症心身障害に応じた介護を理解する（1）	講義・演習	重症心身障害における生活上の困りごとを理解し、介護福祉職が果たす役割を考える
14	重症心身障害に応じた介護を理解する（2）	講義・演習	重症心身障害における生活上の困りごとを理解し、介護福祉職が果たす役割を考える
15	終講試験・授業内容のまとめと振り返り	講義・筆記試験	レポート提出・テキストを読んで復習をしておく

■受講上の注意

心身機能障害が生活にどのような影響を及ぼしているのか理解し、必要な支援を考えていくため、関連科目「こころとからだのしくみ」をよく読んで理解しておく

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② レポート提出　20%

■テキスト参考書など

8生活支援技術Ⅲ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

実習服・実習靴

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

生活支援技術I

講師：松野下 信三

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。精神障害者についての理解を深め、障害に応じた介護の技術や知識を習得する。利用者が家族や社会へと参加活動ができるように援助していける。対象者が“生きている”という実感をもてるような社会的支援ができる。
・高次脳機能障害のある人を理解するために、高次脳機能障害とは何かを学ぶ。高次脳機能障害のある人の特徴に合わせた介護技術を展開するための視点を学ぶ。高次脳機能障害のある人に適切な介護技術や介護を提供するうえでの留意点を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害者と生活を理解できる	講義	テキストにて予習を行うこと
2	精神障害者の生活支援と環境調整を理解できる	講義・DVD	テキストにて予習を行うこと
3	精神障害者への介護支援技術を理解できる	講義・GW	テキストにて予習を行うこと
4	精神障害者に対する多職種連携支援を理解できる	講義・GW	テキストにて予習を行うこと
5	精神障害者についてのまとめ	講義	テキストにて復習を行うこと
6	知的障害について、医学的・心理的側面から理解できる 知的障害のある人の生活上の困りごとを理解する	講義	テキストを読んでくる
7	知的障害のある人への支援において、多職種連携の中で介護福祉士が果たすべき役割を理解する	講義・GW	テキストを読んでくる コミュニケーション技術を持参する 小テスト
8	発達障害について医学的、心理的側面から理解できる	講義	テキストを読んでくる
9	発達障害のある人の家族の生活上の困りごとを理解する	講義・GW	テキストを読んでくる
10	発達障害のある人への支援において、多職種連携の中で介護福祉士が果たすべき役割を理解する	講義・GW	テキストを読んでくる コミュニケーション技術を持参する
11	知的障害と発達障害のまとめ	講義	テキストを読んで復習しておく
12	高次脳機能障害者と生活を理解できる	講義	指定の教科書持参
13	高次脳機能障害者の生活支援と環境調整を理解できる	講義・DVD	指定の教科書持参
14	高次脳機能障害者への介護と多職種連携を理解できる	講義	指定の教科書持参
15	終講試験・まとめ	筆記試験講義	知的障害・発達障害・認知症について復習を必ずしてくること

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 終講試験　70%　③ 小テスト 30%

■テキスト参考書など

8生活支援技術Ⅲ・13認知症の理解・5コミュニケーション技術「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

生活支援技術J

講師:船場 久枝

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	休息と睡眠について理解する	講義・演習	人間にとっての休息・睡眠がもつ意味を考える
2	休息・睡眠の介護について理解する(1)	講義・演習	安眠を促す環境の調整を考える
3	休息・睡眠の介護について理解する(2)	講義・演習	休息・睡眠環境を整えることができる
4	休息・睡眠の介護における多職種との連携について理解する	講義・演習	休息・睡眠の介護における多職種の役割を学びかかわり方を考える
5	人生の最終段階の意義と介護の役割について理解する	講義・演習	「死」とは何か考える
6	人生の最終段階における介護について理解する(1)	講義・演習	死をむかえる人の支援方法を考える
7	人生の最終段階における介護について理解する(2)	講義・演習	死をむかえた人とその家族への支援方法を考える
8	人生の最終段階の介護における多職種との連携について理解する	講義・演習	人生の最終段階における多職種の役割を学び、かかわり方を考える
9	聴覚・言語障害に応じた介護を理解する	講義・演習	聴覚・言語障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
10	重複障害(盲ろう)に応じた介護を理解する	講義・演習	重複障害について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
11	筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護を理解する	講義・演習	ALSについて医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
12	パーキンソン病に応じた介護を理解する	講義・演習	パーキンソン病について医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
13	悪性関節リウマチに応じた介護を理解する	講義・演習	悪性関節リウマチについて医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
14	筋ジストロフィーに応じた介護を理解する	講義・演習	筋ジストロフィーについて医学的・心理的側面から理解したうえで、生活上の困りごとを理解し、支援について考える
15	終講試験およびまとめ	講義・終講試験	レポート提出

■受講上の注意

講義の前に、テキストを読んで予習をしておく。積極的に演習に取り組むこと。

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② レポート提出　20%

■テキスト参考書など

7生活支援技術Ⅱ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

介護過程Ⅰ

講師:迫 節子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。
① 介護過程の意義・目的を理解する。
② 介護過程の展開プロセスについて、基礎的な知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション　自分と他者を知る	講義・演習	自分自身を知るワーク
2	「介護過程とは何か」について考える	講義・GW	個人ワークとグループワーク活用
3	介護過程の意義と展開プロセスについて理解する	講義	テキストを読んでくる
4	介護過程の目的、展開する基本視点を理解する	講義、演習	テキストを読んでくる
5	介護過程の全体像を理解する①	講義・演習	（理解度チェック）
6	介護過程の全体像を理解する②	講義・演習	テキストを読んでくる
7	介護過程の展開を理解する	GW・講義	テキストを読んでくる
8	生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解できる	講義	テキストを読んでくる
9	介護過程における事例検討の意義と展開方法を理解する	講義・演習	1章2節を読んでくる
10	事例研究の意義と展開方法を理解する	講義・GW	相手の望む旅行計画作成
11	介護福祉分野で使用する「計画」について理解する	GW・講義	テキストを読んでくる
12	介護過程の全体像を再確認し各プロセスで求められる思考の方法を理解する	講義	テキストを読んでくる
13	事例を元にアセスメント、計画の立案を行い理解を深める	GW・講義	積極的に自分の考えを述べる
14	事例を元に、計画の実施、評価方法について理解を深める	講義・GW	これまでの小テスト演習の復習をする
15	終講試験とまとめ	筆記試験・講義	テキストを読んで復習をしておく

■受講上の注意

シラバスを確認し、予習をしてくること。忘れ物をしない。レポート・事前課題の提出期限を守ること。グループワークや講義に主体的に臨むこと。配布資料はファイルし、保管すること。

■成績評価の方法

① レポート・課題・提出物　40%　② 小テスト・終講試験　60%

■テキスト参考書など

介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
図解でスッキリ！「介護福祉士テキスト」ナツメ社

■備考

適宜資料配布

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護過程Ⅱ

講師：坂元 保彦

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。また、支援又は介護を必要とする人を一連の介護過程に基づき、専門的且つ個別的なケアを実践する基礎ができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	アセスメントの必要性、情報とは何か、ICFの考え方を活用した情報収集の方法について理解することができる	講義	テキスト第2章第3節を読んでおく
2	アセスメントの必要性、情報とは何か、ICFの考え方を活用した情報収集の方法について理解することができる	講義	テキスト第2章第3節を読んでおく
3	アセスメントの思考の方法、諸知識を統合することの必要性、個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる	講義	テキスト第2章第4節を読んでおく
4	アセスメントの思考の方法、諸知識を統合することの必要性、個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる	講義	テキスト第2章第4節を読んでおく
5	アセスメントの思考の方法、諸知識を統合することの必要性、個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる	講義	テキスト第2章第4節を読んでおく
6	アセスメントの思考の方法、諸知識を統合することの必要性、個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる	講義	テキスト第2章第4節を読んでおく
7	アセスメントの思考の方法、諸知識を統合することの必要性、個別ケアにおけるアセスメントの意義を理解することができる	講義	テキスト第2章第4節を読んでおく
8	情報の解釈についての理解を深める	講義・GW	テキスト演習、配布プリントを準備する
9	個々の情報収集について、ポイントを理解することができる	講義	実習で使用する情報収集シートを準備する
10	個々の情報収集について、ポイントを理解することができる	講義	実習で使用する情報収集シートを準備する
11	個別ケア提供における介護過程の意義、介護目標の設定方法、立案方法について理解することができる	講義	テキスト第2章第5節を読んでおく
12	個別ケア提供における介護過程の意義、介護目標の設定方法、立案方法について理解することができる	講義	テキスト第2章第5節を読んでおく
13	介護過程における「実施」の意義、留意点、実施後の記録の意義と留意点について理解することができる	講義	テキスト第2章第6節を読んでおく
14	介護過程における評価の意義、内容と方法、個別ケアにおける評価の重要性を理解することができる	講義	テキスト第2章第7節を読んでおく
15	終講試験及びまとめ	講義・筆記試験	テキストを読んで復習しておく

■受講上の注意

私語を慎み、居眠りをしないこと。グループワークの際は、積極的に討議すること。プリントや参考資料を忘れないこと。

■成績評価の方法

① 終講試験 100%

■テキスト参考書など

9介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

プリント資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護過程Ⅲ

講師：石川 高司

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。
①介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する
②介護実習の事例をもとに、介護過程の展開の基礎的な知識・技術を応用し、実践的な展開ができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	アセスメントの実際を展開できる。	講義	テキスト第2章第4節の3を読んでくる。
2	事例1を活用し読み込み、ISFシートへの記入ができる	講義・演習	事例1の情報を読んでくる。
3	事例1　ICFシート記入完了しアセスメント（2）記入ができる	講義・演習	事例を読んでくる。
4	事例1　アセスメントの実際を展開できる。（情報の解釈・統合まで）	講義・演習	事例を読んでくる。
5	事例1　アセスメントの実際を展開できる。情報の整理を行い、予測される課題を考えられる	講義・演習	事例を読んでくる。
6	事例1　介護計画立案の実際の展開が理解できる	講義・演習	事例を読んでくる。
7	事例1　介護計画立案について説明を聞き理解できる。	講義・演習	事例を読んでくる。
8	事例1　実施評価表の実施状況と評価が理解できる	講義・演習	事例を読んでくる。
9	実習事例を活用し読み込み、ISFシートへの記入ができる	講義・演習	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シートを持ってくる。
10	実習事例　アセスメントの実際を展開できる。（情報の解釈・統合）	講義・演習	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シートを持ってくる。
11	実習事例　アセスメントの実際を展開できる。情報の整理を行い、予測される課題を考えられる	講義・演習	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シートを持ってくる。
12	実習事例　介護計画立案の実際を展開できる。	講義・演習	第2段階実習のフェイスシート、情報収集シートを持ってくる。
13	事例3　情報、アセスメント、ICFについて理解できる	講義・演習	事例を読んでくる。
14	事例3　介護計画、評価の実際の展開が理解できる。	講義・演習	事例を読んでくる。
15	終講試験とまとめ	講義・演習	テキストを読んで復習しておく

■受講上の注意

シラバスを確認し、予習をしてくること。忘れ物をしない。レポートの提出期限を守ること。グループワークや講義に主体的に臨むこと。配布資料はファイルし、保管すること。

■成績評価の方法

① 課題　60%　② レポート　20%　③態度　20%

■テキスト参考書など

9介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
適宜資料を配布

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護過程Ⅳ

講師：石川 高司

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養い、介護過程とチームアプローチについて理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ケアマネジメントの目的、構成、流れについて理解することができる	講義	テキスト第4章第1節を読んでくる
2	ケアプランと個別援助計画との関係性を理解する事ができる	講義	テキスト第4章第1節を熟読
3	チームアプローチの必要性とチームにおける介護福祉士の役割を理解する チームアプローチにおける利用者支援の実際を理解する	講義	テキスト第4章第2節を読んでくる
4	利用者の様々な生活と介護過程の展開、介護福祉士の関りについて知る	講義・演習	テキスト第5章第1節を読んでくる
5	事例を通して、利用者さまざまな生活と介護過程の展開の実際について学ぶ （都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援）	講義・演習	テキスト事例1を読み込み、利用者像を理解しておく
6	事例を通して、利用者さまざまな生活と介護過程の展開の実際について学ぶ （離島出身の高齢者の在宅復帰支援）	講義・演習	テキスト事例2を読み込み、利用者像を理解しておく
7	事例を通して、利用者さまざまな生活と介護過程の展開の実際について学ぶ （在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援）	演習	テキスト事例3を読み込み、利用者像を理解しておく
8	事例を通して、利用者さまざまな生活と介護過程の展開の実際について学ぶ （医療的な処置が必要な高齢者の生活支援）	演習	テキスト事例4を読み込み、利用者像を理解しておく
9	事例を通して、利用者さまざまな生活と介護過程の展開の実際について学ぶ （片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援）	演習	テキスト事例5を読み込み、利用者像を理解しておく
10	事例を通して、利用者さまざまな生活と介護過程の展開の実際について学ぶ （災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者への支援）	演習	テキスト事例6を読み込み、利用者像を理解しておく
11	介護過程とチームアプローチ ケアマネジメントの展開と他職種協働（サービス担当者会議の開催）を体験する	演習	サービス担当者会議について事前学習をしておく
12	介護過程の展開（アセスメントと課題の抽出、統合化） 介護専門職としての実践的展開ができる	演習	介護過程Ⅱ　アセスメントと課題の抽出、統合化について復習しておく
13	介護過程の展開 目標の設定と介護計画の作成ができる	演習	介護過程Ⅱ　目標の設定と介護計画作成について復習しておく
14	介護過程の展開 評価の方法および視点を理解することができる	演習	介護過程Ⅱ　評価の方法について復習しておく
15	振り返りとまとめ	演習・講義	演習課題提出

■受講上の注意

配布資料など、きちんと整理しておくこと

■成績評価の方法

① 演習課題　80%　② 学習態度　20%

■テキスト参考書など

9介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護過程Ⅴ

講師:全教員

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。
介護過程の理論と介護実習の体験を基に，事例研究に取り組む。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護事例研究の目的と意義を理解する	講義	介護事例研究をインターネットを使って調べておく
2	事例研究の進め方をを理解する①	講義・演習	実習記録を持参すること
3	事例研究の進め方をを理解する②	講義・演習	実習記録を持参すること
4	研究テーマの設定について理解する	講義・演習	資料や先行研究の収集を行う パソコン室、図書室を利用してもよい
5	「はじめに」のまとめ方を理解する	講義・演習	資料や先行研究の収集を行う パソコン室、図書室を利用してもよい
6	事例の情報をまとめる①	講義・演習	実習記録を持参すること パソコン室を利用してもよい
7	事例の情報をまとめる②	講義・演習	実習記録を持参すること パソコン室を利用してもよい
8	「結果」のまとめ方を理解する	講義・演習	実習記録を持参すること
9	図や表の活用について理解する	講義・演習	実習記録を持参すること
10	「考察」のまとめ方を理解する	講義・演習	実習記録を持参すること
11	文献・資料の活用の仕方について理解する	講義・演習	実習記録を持参すること
12	「結論」のまとめ方を理解する	講義・演習	実習記録を持参すること
13	引用文献と参考文献の書き方が理解できる	講義・演習	実習記録を持参すること
14	事例研究発表会①	講義・演習	発表用資料と原稿を準備しておく
15	事例研究発表会②	講義・演習	発表用資料と原稿を準備しておく

■受講上の注意

第4段階実習記録を持参すること

■成績評価の方法

① 事例研究の内容評価 70%　② 事例研究発表評価 30%

■テキスト参考書など

9介護過程「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である

介護総合演習A

講師：迫 節子

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護総合演習の目的を理解し、介護実習の教育効果を上げるため、事前に各事業所についての理解を深める。
・介護実習の意義を理解することができる。
・各事業所の特徴を理解し、サービス内容や利用者像をイメージできる。
・介護福祉士として各事業所で求められること、実習で学ぶべきポイントを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護総合演習の目的を理解できる	講義	事前にテキストを読んでおくこと
2	介護実習の意義と目的を理解し、介護実習に臨むにあたり、目標をもつことの大切さを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
3	通所介護におけるサービス内容や利用者像などを理解する 通所介護の実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
4	通所リハビリテーションにおけるサービス内容や利用者像などを理解する 通所リハビリテーションの実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
5	グループホームにおけるサービス内容や利用者像などを理解する グループホームの実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
6	小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護におけるサービス内容や利用者像などを理解する 小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護の実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
7	養護老人ホームにおけるサービス内容や利用者像などを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
8	居宅介護支援事業におけるサービス内容の理解や多職種連携について理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
9	特別養護老人ホームにおけるサービス内容や利用者像などを理解する 特別養護老人ホームの実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
10	介護老人保健施設におけるサービス内容や利用者像などを理解する 介護老人保健施設の実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
11	障害者支援施設におけるサービス内容や利用者像などを理解する 障害者支援施設の実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
12	医療型障害児入所支援施設・療養介護支援施設におけるサービス内容や利用者像などを理解する 医療型障害児入所支援施設・療養介護支援施設の実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
13	軽費老人ホーム（ケアハウス）におけるサービス内容や利用者像などを理解する 軽費老人ホーム（ケアハウス）の実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと
14	障害者総合支援法に基づく、就労支援について理解を深める	講義	事前にテキストを読んでおくこと
15	訪問介護におけるサービス内容や利用者像などを理解する 訪問介護の実習で学ぶべきポイントを理解する	講義	事前にテキストを読んでおくこと

■受講上の注意

主体的に講義に臨み、積極的に質問等をすること。私語はしないこと。
レスポンスシートの提出は期限を守ること。

■成績評価の方法

①レスポンスシートの提出　80%　②授業態度・出席　20%

■テキスト参考書など

10介護総合演習・介護実習「介護福祉士養成施設講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

介護総合演習B

講師：迫 節子

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。
実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。
実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させ事故の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。
・介護実習の意義を理解することができる
・基本的な介護実習記録の方法を理解し、記載することができる。
・関連科目で学んだ知識や技術を実習に活用することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	介護実習の種類について理解する。 実習Ⅰ・実習Ⅱのそれぞれの目的と内容、流れについて理解する	講義	テキスト第2章　第2節を読んでくる
2	実習前の学びと、実習後の学びのいかし方について理解する 介護実習前の学習の内容と方法について理解できる	講義	テキスト第2章　第3節を読んでくる
3	実習前の学習の意義と目的を理解する 介護実習が始まるまでの流れと実習前の学習の内容を理解する	講義	テキスト第3章　第1節を読んでくる
4	第1段階実習の内容を把握し、実習要項で理解できる	講義・演習	実習要項を事前に読んでくる （第1段階実習）　※実習要項持参
5	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）	講義・演習	テキスト第3章　第1節を再度読んでくる ※実習要項持参
6	介護実習中の学習の内容と方法について理解できる サブノートの書き方、活用のしかたについて理解する）	講義	※サブノートや実習に関する資料を持参
7	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる② （日々の実習記録）	講義・演習	※実習要項持参 テキスト「実習日誌の記入例」を読んでくる
8	事前訪問の意義と目的を理解することができる。	講義	※実習要項持参 テキストの「事前訪問をする」を読んでくる
9	利用者・職員とのコミュニケーションと最終カンファレンスの仕方を理解することができる	講義・演習	※実習要項持参
10	実習報告会の意義と目的を理解することができる。	講義	テキスト「介護実習後の学習の内容と方法」を読んでくる
11	第1段階実習振り返り・学内評価	発表	報告資料を各自準備しておく・レポート提出
12	第2段階実習の具体的な内容を把握し実習要項で理解できる	講義	実習要項を事前に読んでくる （第2段階実習）
13	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる① （実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書・アセスメントシート・日々の記録）	講義・演習	テキスト「介護実習についての準備・実習目標の設定」を読んでくる※実習要項持参
14	2段階実習振り返り・まとめ	発表	2段階実習振り返り
15	学内評価（2段階実習報告会）	発表	報告資料を各自準備しておく・レポート提出

■受講上の注意

テキスト・実習要項を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。忘れ物のないようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

① 発表内容（第1・2段階報告会発表）60%
② 提出物・確認テスト（実習記録含む）40%

■テキスト参考書など

10介護総合演習・介護実習「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

介護総合演習C

講師：三原めぐみ

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う
①実習の教育効果を上げるため事前に実習施設についての理解を深めるとともに各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践につなげる
②実習を振り返り介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う
③質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	第3段階実習の具体的な内容を把握し、実習要項を理解できる	講義・演習	実習要項を持参すること
2	第2段階実習の具体的な内容を把握し実習要項で理解できる	演習	実習要項を持参すること 第2段階実習の記録を持参すること
3	実習に関する記録の書き方を理解し作成できる（実習目標・実習計画・施設の概況・誓約書）実習施設について理解する	講義・演習	実習先について調べてくること 実習要項持参
4	介護過程展開を理解することができる① （情報の分析）	講義・演習	実習記録、資料持参
5	介護過程展開を理解することができる② （情報の整理、ICFシート作成）	講義・演習	実習記録、資料持参
6	介護過程展開を理解することができる③ （アセスメント、介護計画の立案）	講義・演習	実習記録、資料持参
7	介護過程展開を理解することができる④ （介護計画実施状況と事例研究の内容）	講義・演習	実習記録、資料持参
8	介護過程展開を理解することができる⑤ （評価）	講義・演習	実習記録、資料持参
9	他職種連携について理解することができる。 介護過程展開を理解することができる⑥	講義・演習	実習記録、資料持参
10	中間・最終カンファレンスの意義と目的を理解し、準備ができる	実習記録、資料持参	講義・演習
11	実習に関する記録をまとめ、実習施設に提出することができる（実習記録一式）	講義・演習	実習記録、資料持参
12	第3段階実習について振り返り、報告会の 準備ができる（発表原稿、資料作成）	講義・演習	実習記録、資料持参
13	第3段階実習について振り返り、報告会の 準備ができる（発表原稿、資料作成）	講義・演習	資料作成
14	学内評価 第3段階実習報告会	発表	発表後、レポート提出
15	学内評価 第3段階実習報告会	発表	発表後、レポート提出 振り返りシートを提出

■受講上の注意

・テキスト・実習要項を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。
・介護実習Ⅲに向けた事前・事後指導となるため、忘れ物をしないこと。主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

①学内評価（第3段階実習報告会発表）60%　②レポート10%　③提出物（事前・事後）30%

■テキスト参考書など

10介護総合演習・介護実習「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

介護総合演習D

講師:全教員

単位数:1単位　　時間数:30時間　　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。
実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。
介護実習前の施設等のオリエンテーション、実習後の実習報告実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を設ける、また実習後の実習報告など実習に必要な知識や技術などについて個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。
本講義については実習と組み合わせての学習とする

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	第4段階実習の具体的な内容を把握し、実習要項で理解できる。	講義	実習要項を読んでくる。(第4段階実習) テキストを読んでくる
2	実習施設について理解する①	講義	今回の実習施設の範囲を復習してくる (地域密着型サービス・居宅サービス)
3	実習施設について理解する②	講義	今回の実習施設の範囲を復習してくる (訪問介護)
4	実習に関する記録の書き方を理解し、作成できる①	講義・演習	実習先について調べてくる
5	実習に関する記録の書き方を理解し、作成できる②	講義・演習	実習先について調べてくる
6	事前訪問の意義と目的を理解することができる	講義・演習	実習要項を持参する
7	介護実習に必要な知識を学ぶ①	講義・演習	介護実習中の記録の整理、実習中に困った実技の復習
8	介護実習に必要な知識を学ぶ②	講義・演習	介護実習中の記録の整理、実習中に困った実技の復習
9	介護実習に必要な知識を学ぶ③	講義・演習	介護実習中の記録の整理、実習中に困った実技の復習
10	介護実習に必要な知識を学ぶ④	講義・演習	介護実習中の記録の整理、実習中に困った実技の復習
11	実習現場での学習の振り返り①	演習	実習要項・実習記録を持参する
12	実習現場での学習の振り返り②	演習	実習要項・実習記録を持参する
13	実習報告会の方法を理解することができる	講義	テキストを読んでくる
14	学内評価(第4段階実習報告会)	発表	報告資料の準備をしておく レポート提出
15	学内評価(第4段階実習報告会)	発表	報告資料の準備をしておく レポート提出

■受講上の注意

テキスト・実習要項を熟読し、分からない事は積極的に質問すること。
各自実習を行う施設は異なるため、自分自身で責任をもって準備や連絡を行うこと。

■成績評価の方法

① 事前・事後学習の提出物・レポート 30%　② 発表内容(第3段階報告会)70%

■テキスト参考書など

10介護総合演習・介護実習「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
実習要項・実習記録

■備考

■実務経験

介護実習Ⅰ

講師:実習指導者、全教員

単位数:1単位	時間数:45時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

① 地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。
②本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

科目内容
① 本人、家族等との関係性の構築に向けたコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
② 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 実習先評価　60%　② 学内評価　40%

■テキスト参考書など

介護総合演習・介護実習 「介護福祉士養成講座編集委員会」 中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である

介護実習Ⅱ

講師:実習指導者、全教員

単位数:3単位	時間数:135時間	授業学年:1学年
必修選択:必修		

■科目目標

① 地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。
②本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

科目内容
① 対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。
② 介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 実習先評価　60%　② 学内評価　40%

■テキスト参考書など

10介護総合演習・介護実習「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である

介護実習Ⅲ

講師:実習指導者・全教員

単位数:4単位	時間数:180時間	授業学年:2学年
必修選択:必修		

■科目目標

① 地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。
②本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

科目内容

① 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術を習得する。
② 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
③ 多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 実習先評価　60%　② 学内評価　40%

■テキスト参考書など

10介護総合演習・介護実習「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である

介護実習Ⅳ

講師:実習指導者・全教員

単位数:2単位	時間数:90時間	授業学年:2学年
必修選択:必修		

■科目目標

① 地域における様々な場面において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。
②本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

科目内容

① 対象者の生活と地域の関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。
② 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。
③レクリエーション活動を通して、QOLや生きがいについて考える。
④ 多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、チームケアを体験的に学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点

■受講上の注意

■成績評価の方法

① 実習先評価　60%　② 学内評価　40%

■テキスト参考書など

介護総合演習・介護実習「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である

発達と老化の理解 Ⅰ

講師：三原 めぐみ

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	発達の概念を理解する。（生涯発達の段階）	講義	テキストを読んでくる
2	成長・発達の原則原理を理解する。	講義・GW	母子手帳の記録を見てくる
3	成長・発達に影響する要因について理解する	講義	テキストを読んでくる
4	発達段階と発達課題について理解する①（ハヴィガースト）	講義	テキストを読んでくる 小テスト
5	発達段階と発達課題について理解する②（エリクソン）	講義	テキストを読んでくる
6	発達段階と発達課題について理解する③（エリクソン）	講義	テキストを読んでくる
7	発達段階と発達課題について理解する④ （ピアジェ・フロイト）	講義	テキストを読んでくる 小テスト
8	身体的機能の成長と発達について理解する。①	講義・GW	テキストを読んでくる 小テスト
9	身体的機能の成長と発達について理解する。②	講義・GW	テキストを読んでくる
10	発達にともなう特徴的な疾病や障害について理解する。	講義	テキストを読んでくる
11	社会的機能の発達について理解する。	講義	テキストを読んでくる
12	老年期の定義と老化とは何か理解する。	講義	テキストを読んでくる 小テスト
13	老年期の発達課題について理解する。	講義	テキストを読んでくる ワークシートの提出
14	老年期のめぐる今日的課題について考える。	講義・GW	テキストを読んでくる 小テスト
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	全講義の復習をすること

■受講上の注意

事前学習や事後学習を行うこと。分からないことは、積極的に質問すること。
自分自身の経験が大きな学びの材料となるため、自宅等で母子手帳や幼少期の話を家族等から情報を集めておく。

■成績評価の方法

①終講試験　70%　②小テスト　20%　③提出物　10%

■テキスト参考書など

12発達と老化の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
必要に応じて、参考資料等を配布

■備考

授業全体を通して、学びのまとめワークシートを完成させてもらう。

■実務経験

発達と老化の理解 Ⅱ

講師：迫 節子

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	加齢に伴う生理機能の全体的な低下について理解する	講義・GW	第4章 第1節を読んでくる
2	加齢に伴う身体機能の低下が日常生活にどのような影響を及ぼしているかを理解する	講義	第4章第1節を読んでくる 小テスト
3	老化に伴う心理的な変化と生活への影響について知る 認知機能・知的機能・性格の変化について理解する	講義	第4章第2節を読んでくる 小テスト
4	老化による適応や動機づけへの影響を理解する	講義	第4章第2節を読んでくる 小テスト
5	老化に伴う社会的な変化と生活への影響について理解する	講義・演習	第4章第3節を読んでくる 小テスト
6	高齢者の健康が注目されるようになった背景を理解する サクセスフルエイジング・プロダクティブエイジング・アクティブエイジングの考え方を理解する	講義・演習	第5章第1節を読んでくる 小テスト
7	高齢者に多い症状や疾患の特徴、高齢者に特有な症候について理解する	講義	第5章第2節を読んでくる 小テスト
8	高齢者に多い疾患と症状、生活上の留意点を理解する 1. 骨格系・筋系	講義	第5章第3節を読んでくる 小テスト
9	高齢者に多い疾患と症状、生活上の留意点を理解する 2. 脳・神経系　　3. 皮膚・感覚器系	講義	第5章第3節を読んでくる 小テスト
10	高齢者に多い疾患と症状、生活上の留意点を理解する 4. 循環器系　5. 呼吸器系　　6. 消化器系	講義	第5章第3節を読んでくる 小テスト
11	高齢者に多い疾患と症状、生活上の留意点を理解する 7. 腎・泌尿器系　　8. 内分泌・代謝系	講義	第5章第3節を読んでくる 小テスト
12	高齢者に多い疾患と症状、生活上の留意点を理解する 9. 歯・口腔疾患　　10. 悪性新生物	講義	第5章第3節を読んでくる 小テスト
13	高齢者に多い疾患と症状、生活上の留意点を理解する 11. 感染症　　12. 精神疾患　　13. その他	講義	第5章第3節を読んでくる 小テスト
14	保健医療職との連携について学ぶ	講義	第5章第4節を読んでくる 小テスト
15	終講試験及びまとめ	筆記試験・講義	テキストを読んで復習しておく

■受講上の注意

聞きなれない専門用語が出てくるので、予習して、わからないことは質問する
演習問題は復習すること

■成績評価の方法

① 終講試験　60%　② 小テスト　40%

■テキスト参考書など

12発達と老化の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
図解でビックリ！「介護福祉士テキスト」ナツメ社

■備考

必要に応じて配布資料を使用する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

認知症の理解 Ⅰ

講師:迫 節子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

認知症のケアの歴史や理念を含む認知症を取り巻く社会的環境について理解する。
医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	認知症高齢者の推移と有病率の現状を知る 認知症の定義と診断基準、生活障害について理解する	講義	第1章　第1・2節を読んでくる
2	認知症の全体像と特徴を理解する 脳の構造機能と症状の関係を理解する 老化に伴う脳の変化を知り、認知症との関連を理解する	講義	第1章　第2・3節を読んでくる
3	認知症の人の心理を理解する	講義	第1章　第4節を読んでくる 小テスト
4	中核症状とは何かを理解する 代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解する	講義	第2章　第1節を読んでくる
5	認知症の生活障害について理解する IADL.ADL.参加の障害を理解する	講義	第2章　第2節を読んでくる
6	BPSDの定義と背景因子について理解する 個々のBPSDの概要を知る	講義	第2章　第3節を読んでくる 小テスト
7	認知症の診断要件を理解する 認知機能と重症度の評価方法を理解する	講義	第2章　第4節を読んでくる
8	認知症の原因疾患の病態や症状を理解する	講義	第2章　第5節を読んでくる
9	認知症の治療薬の作用機序や効果、副作用について理解する	講義	第2章　第6節を読んでくる 小テスト
10	さまざまな危険因子・保護因子を知り、認知症の予防について理解する	講義	第2章　第7節を読んでくる
11	認知症を取り巻く背景や施策の流れを知る 認知症ケアの今後の方向性について考える	講義	第3章　第1節を読んでくる
12	認知症ケアの理念と倫理について学ぶ 認知症の人の権利とかかわり方について学ぶ	講義	第3章　第2節を読んでくる 小テスト
13	認知症の人の思いを理解し支援内容を考えるための基本を学ぶ 認知症の人の体験が生活に及ぼす影響を知る	講義	第3章　第3節を読んでくる
14	認知症の人を尊重した支援内容を考えるための基本を学ぶ	講義/演習	事例を元に意見を述べる
15	まとめと終講試験	筆記試験　講義	テキストを読んで復習しておく

■受講上の注意

提出物をきちんと出すこと。
本を読む時に難しい言葉にはチェックをしておくこと

■成績評価の方法

① 小テスト 40% ② 終講試験 60%

■テキスト参考書など

13認知症の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規
図解でスッキリ！「介護福祉士テキスト」 ナツメ社

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

認知症の理解Ⅱ

講師：三原めぐみ

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	パーソンセンタードケアを理解する。	講義	テキストを読んでくる
2	認知症の人の言動の背景にはさまざまな要因が影響してくることを学ぶ。①	講義・GW	テキストを読んでくる GWに積極的に参加する
3	認知症の人の言動の背景にはさまざまな要因が影響してくることを学ぶ。②	講義・GW	テキストを読んでくる GWに積極的に参加する
4	認知症の人の言動の背景には様々な要因が影響してくることを学ぶ③	講義・GW	テキストを読んでくる
5	認知症の人とのコミュニケーションにおける留意点について理解する。	講義	テキストを読んでくる 小テスト
6	認知機能障害による生活への影響を理解する。	講義	テキストを読んでくる
7	認知症の人へのさまざまなアプローチ、介護を受ける人の能力をうばわない重要性を学ぶ①	講義	テキストを読んでくる
8	認知症の人へのさまざまなアプローチ、介護を受ける人の能力をうばわない重要性を学ぶ②	講義	テキストを読んでくる
9	終末期における認知症の人の特徴を理解する。	講義	テキストを読んでくる 小テスト
10	環境づくりのポイントを理解し、具体的な手法を考えることができるようになる。	講義・GW	テキストを読んでくる GWに積極的に参加する
11	家族介護者を支える介護福祉士の役割を理解する。	講義	テキストを読んでくる
12	介護福祉職が介護現場でやりがいをもって、安心して働き続けられる環境を整備する方法を学ぶ	講義・GW	テキストを読んでくる
13	新オレンジプランに位置づけられた機関やサービスを理解する。	講義	テキストを読んでくる
14	認知症の人が地域で継続して暮らすために、多職種連携と協働が必要であることを理解する。	講義・GW	テキストを読んでくる 小テスト
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	テキストを復習してくる

■受講上の注意

指示された内容について、事前学習や事後学習を行うこと。分からない時は、積極的に質問すること。

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②小テスト　10%　③出席・提出物　10%

■テキスト参考書など

13認知症の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

認知症の理解Ⅰの復習をしておくこと

■実務経験

障害の理解 Ⅰ

講師:福永 宏子

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	障害の基本的理解①障害の概念について理解することができる	講義	テキストを読んで予習してくる
2	障害の基本的理解②障害の概念について理解することができる	講義	テキストを読んで予習してくる
3	障害福祉に関する制度①障害のある人に対するサービスについて理解できる	講義	テキストを読んで予習してくる
4	連携と協働①地域のサポート体制を理解することができる	講義・GW	テキストを読んで予習してくる
5	連携と協働②チームアプローチについて理解できる	講義・GW	
6	障害のある人の生活について理解できる	講義・GW	
7	障害のあり人の生活の実際を知ることができる	講義・GW	テキストを読んで予習してくる
8	家族への支援①家族への支援について理解できる	講義・GW	テキストを読んで予習してくる
9	家族への支援②家族への支援について理解できる	講義・GW	テキストを読んで予習してくる
10	障害の基本的理解②障害の概念について理解することができる	講義	
11	障害福祉の基本的理解②リハビリ・社会に関連する考え方が理解できる	講義	テキストを読んで予習してくる
12	障害福祉の基本的理念③福祉に関する思想や理念について説明できる	講義	テキストを読んで予習してくる
13	障害福祉に関連する制度②障害者の権利について理解できる	講義	テキストを読んで予習してくる
14	障害福祉に関連する制度③サービスの違いを理解できる	講義	テキストを読んで予習してくる
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	テキストを復習してくる

■受講上の注意

基本的内容について理解を深めるために、事前の予習及び課題に取り組むこと

■成績評価の方法

①終講試験　70%　②確認テスト　20%　③レポート　10%

■テキスト参考書など

14障害の理解「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

必要に応じて、確認テストを実施

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

障害の理解Ⅱ

講師:有村 裕二

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

障がいのある人の心身機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障がいのある人の地域での生活を理解し、本人とその家族や地域を含めた周囲環境への支援の在り方を理解する。また、内部障がい、難病などの病態を学習し、特徴的な症状や生活上の留意点などの知識を得ることで、生活における不自由さや工夫の必要性を理解する。もって、どのような支援が必要となるかを考えることが出来るようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	障がいのある人の心理を理解し、障がいの受容の段階に応じた支援を考える	講義	人間の欲求や適応機制を知る。障がい受容に影響を与える要因を理解する。
2	肢体不自由(運動機能障害)のある人の特徴を理解し、支援の在り方を考える	講義	身体的特徴と心理的側面の理解を深め、生活状況を想定した支援について考える
3	聴覚・言語障がいのある人の特徴を理解し、支援の在り方を考える	講義	身体的特徴と心理的側面の理解を深め、生活状況を想定した支援について考える
4	視覚・重複障がいのある人の特徴を理解し、支援の在り方を考える	講義	身体的特徴と心理的側面の理解を深め、生活状況を想定した支援について考える
5	心臓機能障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
6	呼吸機能障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
7	肝臓機能障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
8	膀胱・直腸機能障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
9	腎臓機能障がい・小腸機能障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
10	免疫機能障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
11	知的障がい及び発達障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
12	精神障がい及び高次脳機能障がいのある人の特性を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
13	難病の人の特徴を理解し、支援の在り方を考える	講義	障がいによる生活面への影響を学び、特性に応じた支援や介護職の役割について考える
14	地域のサポート体制及びチームアプローチを理解する	講義	障がいに対する支援体制、チームアプローチとは何か、家族の介護負担、介護力を踏まえた支援について考える
15	終講試験・講義内容のまとめと振り返り	筆記試験・講義	テキスト、配布資料等で復習を行い試験に臨む

■受講上の注意

テキストをしっかりと読み、用語や表現を理解する。他の講義(関連科目)とのつながりがあることを理解する。

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②レポート　20%

■テキスト参考書など

14 障害の理解 「介護福祉士養成講座編成委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である

こころとからだのしくみA

講師：池田 加奈子

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	健康の定義について理解ができる	講義	テキストを読んで予習しておく
2	健康づくり、健康観について理解ができる	講義	健康とはどういう状態かを考えておく
3	健康管理について理解できる①	講義・GW	グループワークでは積極的に意見を出し合うこと
4	健康管理について理解できる②	講義・GW	グループワークでは積極的に意見を出し合うこと
5	健康寿命と疾患の予防が理解できる	講義	テキストを読んで予習しておく
6	基本的欲求と社会的欲求が理解できる	講義	テキストを読んで予習しておく
7	自己実現と尊厳について理解できる	講義	テキストを読んで予習しておく
8	脳のしくみについて理解できる	講義	小テスト
9	認知と学習のしくみについて理解できる	講義	小テスト
10	記憶と思考のしくみについて理解できる	講義	テキストを読んで予習しておく
11	感情と意欲のしくみについて理解できる	講義	テキストを読んで予習しておく
12	適応機制について理解できる	講義	テキストを読んで予習しておく
13	高齢者の人格と適応について理解できる	講義	小テスト
14	こころのしくみのまとめ	講義	小テスト
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストと小テストの内容を復習しておく

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備すること

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② 小テスト　20%

■テキスト参考書など

11こころとからだのしくみ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

こころとからだのしくみB

講師：池田 加奈子

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	細胞・遺伝について理解できる	講義	テキストを読んで予習しておく
2	身体各部の名称について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
3	脳・神経のしくみについて理解する	講義	小テスト（身体各部の名称）
4	交感神経・副交感神経のしくみについて理解する	講義	小テスト（脳・神経のしくみ）
5	感覚器のしくみについて理解する	講義	小テスト（交感神経・副交感神経）
6	内臓の名称について理解する	講義	小テスト（感覚器）
7	呼吸器のしくみについて理解する	講義	小テスト（内臓の名称）
8	循環器のしくみについて理解する	講義	小テスト（呼吸器）
9	消化器のしくみについて理解する	講義	小テスト（循環器）
10	泌尿器のしくみについて理解する	講義	小テスト（消化器）
11	骨・筋肉のしくみについて理解する	講義	小テスト（泌尿器）
12	骨・筋肉のはたらきについて理解する	講義	小テスト（骨）
13	ホルモン・血液のしくみについて理解する	講義	小テスト（筋肉）
14	高齢者と薬について理解する	講義	小テスト（ホルモン・血液）
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストと小テストにて復習をしておく

■受講上の注意

予習として、テキストを読んでおくこと

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② 小テスト　20%

■テキスト参考書など

11こころとからだのしくみ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

こころとからだのしくみC

講師:船場 久枝

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

介護を必要人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	移動に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
2	心身の機能低下が移動に及ぼす影響を理解する	講義	運動機能の低下について調べておく
3	移動に関連した変化の気づきと対応について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
5	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響を理解する	講義	感覚器の機能低下について調べておく
6	身じたくに関連した変化の気づきと対応について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
7	確認小テスト・まとめ	講義	小テスト・テキストを読んで復習しておく
8	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	１日に食べたものを記録し持参する
9	心身の機能低下が食事に及ぼす影響を理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
10	食事に関連した変化の気づきと対応について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
11	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
12	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
13	入浴・清潔保持に関連した変化の気づきと対応について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
14	確認小テスト・まとめ	講義	小テスト・テキストを読んで復習しておく
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストと小テストの内容を復習しておく

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② 小テスト　20%

■テキスト参考書など

11こころとからだのしくみ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

こころとからだのしくみD

講師：船場 久枝

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	排泄についてテキストを読んで予習しておく
2	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響を理解する	講義	排尿・排便障害についてテキストを読んでおく
3	排泄に関連した変化の気づきと対応について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
4	休息と睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解する	講義	睡眠についてテキストを読んで予習しておく
5	心身の機能低下が休息と睡眠に及ぼす影響を理解する	講義	睡眠障害についてテキストを読んでおく
6	休息と睡眠に関連した変化の気づきと対応について理解する	講義	キストを読んで予習しておく
7	確認小テスト・まとめ	講義	小テスト・テキストを読んで復習しておく
8	「死」とは「死」について理解する①	講義	「死」とはなにかについて考えておく
9	「死」とは「死」について理解する②	講義	「尊厳死」についてテキストを読んでおく
10	「死」に対するこころについて理解する	講義	死の受容プロセスについてテキストを読んでおく
11	終末期から危篤状態、死後のからだについて理解する①	講義	終末期のからだについてテキストを読んでおく
12	終末期から危篤状態、死後のからだについて理解する②	講義	死後のからだの変化についてテキストを読んでおく
13	終末期における医療職との連携について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
14	確認小テスト・まとめ	講義	小テスト・テキストを読んで復習しておく
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストと小テストの内容を復習しておく

■受講上の注意

関連科目「人間の理解」「生活支援技術Ⅱ」と結びつけて理解できるように学習していくこと

■成績評価の方法

①終講試験　80%　　②小テスト　20%

■テキスト参考書など

11こころとからだのしくみ「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

医療的ケアⅠ

講師：池田 加奈子

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に喀痰吸引・経管栄養を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション　医療的ケアの位置づけを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
2	チーム医療と医療の倫理を理解する	講義	小テスト 介護福祉士と共に働く職種とその役割を調べておく
3	個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちを理解する	講義	日本国憲法 第13条・25条を調べておく
4	喀痰吸引、経管栄養について動画を見ながら概要を理解する	講義	小テスト テキストの動画をみて予習をしておく
5	医療的ケアに関する制度を理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
6	リスクマネジメントについて理解する	講義	小テスト テキストを読んで予習しておく
7	救急蘇生法について理解する	講義	小テスト テキストを読んで予習しておく
8	救急蘇生法の演習	講義・演習	テキストの動画「救急蘇生法」をみて予習をしておく 実習服・実習靴
9	感染予防について理解する	講義	小テスト テキストを読んで予習しておく
10	介護福祉職の感染予防について理解する（手洗い評価・個人防護具の装着）	講義・演習	テキストを読んで予習しておく 実習服・実習靴
11	消毒と滅菌、汚染物の処理について理解する	講義・演習	テキストを読んで予習しておく 実習服・実習靴
12	身体・精神の健康、バイタルサインについて理解する	講義	バイタルサインについて調べておく
13	バイタルサインの測定、記録の演習	講義・演習	バイタルサインについて復習しておく 実習服・実習靴
14	急変状態について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
15	終講試験・まとめ	筆記試験・講義	テキストと小テストの内容を復習しておく

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する。

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② 小テスト　20%

■テキスト参考書など

15医療的ケア「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

医療的ケアⅡ

講師：船場 久枝

単位数：2単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に喀痰吸引を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸のしくみとはたらきを理解する（1）（呼吸器官）	講義	テキストを読んで予習しておく
2	呼吸のしくみとはたらきを理解する（2）（換気とガス交換）	講義	テキストを読んで予習しておく
3	いつもと違う呼吸状態・痰を生じて排出するしくみを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
4	喀痰吸引が必要な状態、喀痰吸引のしくみを理解する	講義	喀痰吸引のテキスト動画をみておく
5	人工呼吸器が必要な状態、人工呼吸器のしくみを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
6	侵襲的人工呼吸療法の場合の気管カニューレ内部の吸引について理解する	講義	気管カニューレ内部の喀痰吸引のテキスト動画をみておく
7	子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
8	呼吸器系の感染予防、事故対策について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
9	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみについて理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
10	喀痰吸引の実施手順と留意点について理解する	講義	喀痰吸引のテキスト動画をみておく
11	喀痰吸引にともなうケア、報告、記録の仕方を理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
12	口腔内喀痰吸引の実施手順を理解する	講義・演習	口腔内喀痰吸引のテキスト動画をみておく 実習服・実習靴
13	鼻腔内喀痰吸引の実施手順を理解する	講義・演習	鼻腔内喀痰吸引のテキスト動画をみておく 実習服・実習靴
14	気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施手順を理解する	講義・演習	気管カニューレ内部の喀痰吸引のテキスト動画をみておく 実習服・実習靴
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストを読んで復習しておく・レポート課題提出

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する。レポートの提出期限を守ること。演習は、実習服・実習靴を持参し身だしなみを整えた上で臨むこと。

■成績評価の方法

① 終講試験　80%　② レポート　20%

■テキスト参考書など

15医療的ケア「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

医療的ケアⅢ

講師:船場 久枝

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に経管栄養を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	消化器のしくみとはたらきを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
2	消化・吸収とよくある消化器の症状について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
3	経管栄養が必要な状態、経管栄養のしくみを理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
4	経管栄養で注入する内容について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
5	経管栄養実施上の留意点について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
6	子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
7	経管栄養に関係する感染と予防について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
8	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、事故対策について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
9	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
10	経管栄養の実施手順と留意点について理解する	講義	経管栄養のテキストの動画をみておく
11	経管栄養に必要なケア、報告、記録について理解する	講義	テキストを読んで予習しておく
12	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の実施手順を理解する	講義・演習	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養のテキストの動画をみておく
13	経鼻経管栄養の実施手順を理解する（1）	講義・演習	経鼻経管栄養のテキストの動画をみておく
14	経鼻経管栄養の実施手順を理解する（2）	講義・演習	経鼻経管栄養のテキストの動画をみておく
15	終講試験・まとめ	講義・筆記試験	テキストを読んで復習しておく・レポート課題提出

■受講上の注意

配布資料をまとめるファイルを準備する。レポート課題の提出期限を守ること。演習は、実習服・実習靴を持参し身だしなみを整えた上で臨むこと。

■成績評価の方法

①終講試験　80%　②実習態度　20%

■テキスト参考書など

15医療的ケア「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

医療的ケアⅣ

講師:船場 久枝、池田加奈子、迫 節子

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
介護福祉士が安全に喀痰吸引・経管栄養を実践するために必要な基本的知識・技術を身につける。医行為であることの自覚をもち、常に安全・清潔を心がけることの必要性の理解と習慣化を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	口腔内喀痰吸引の実施手順を理解する	演習	安全面や清潔面に対する注意事項をきちんと守り演習をすること
2	鼻腔内喀痰吸引の実施手順を理解する	演習	安全面や清潔面に対する注意事項をきちんと守り演習をすること
3	気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施手順を理解する	演習	安全面や清潔面に対する注意事項をきちんと守り演習をすること
4	口腔内喀痰吸引の実技試験(1)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
5	口腔内喀痰吸引の実技試験(2)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
6	鼻腔内喀痰吸引の実技試験(1)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
7	鼻腔内喀痰吸引の実技試験(2)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
8	気管カニューレ内部の喀痰吸引の実技試験(1)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
9	気管カニューレ内部の喀痰吸引の実技試験(2)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
10	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の実施手順を理解する	演習	安全面や清潔面に対する注意事項をきちんと守り演習をすること
11	経鼻経管栄養の実施手順を理解する	演習	安全面や清潔面に対する注意事項をきちんと守り演習をすること
12	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の実技試験(1)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
13	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の実技試験(2)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
14	経鼻経管栄養の実技試験(1)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する
15	経鼻経管栄養の実技試験(2)	演習実技試験	演習が終わった学生から順に実技試験を実施する

■受講上の注意

実習着・実習靴を毎回持参すること。清潔な容姿(服装・爪・髭など)に整えた上で、演習に臨むこと。忘れものや不潔な状態がみられた場合は、演習参加はできないものとする。自宅にて、テキストの動画を見て予習・復習をすること。実技試験は、演習が終わった学生から順に実施する。

■成績評価の方法

①実技試験　90%　②　演習態度　10%

■テキスト参考書など

15医療的ケア「介護福祉士養成講座編集委員会」中央法規

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

レクリエーション援助技術

講師：四元 幹雄、迫 節子

単位数：4単位　　時間数：60時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

レクリエーションの持つ社会的意義や福祉の現場で活用できるレクリエーションの様々な方法を学ぶことにより、対象者に対して、専門的なレクリエーション支援ができるようになる。なお知識や理解ばかりでなく実践的な技術も身につける。
単なる座学でなく、様々なレクリエーション活動の基礎とその指導法を学習し、レクリエーションの持つ楽しさやその有益性を学ぶ。
レクリエーションの楽しさの原点である「達成感」と自己効力感の関係、他人との関わりから得られる「集団凝集性」について理解する
・レクリエーション支援の理論と活動を活動を数多く体験し、その楽しさと有益性の背景を理解することで、あらゆる現場で指導ができる。
・レクリエーション支援法を理解実践することで、人前で話すことが苦にならなくなり自信が身につく。
・ホスピタリティの発揮によりコミュニケーション力がアップする。
「楽しさを通して人の心を元気にする」支援技術は、「支援者自身の心の持ちようが変わらなければならない」ことを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション「レクリエーションについて知る」	講義・実技	レクリエーションがいかに楽しく役に立つかを知る
2	レクリエーションを体験する（なぜ楽しいのか）	講義・演習	「楽しさの中身」を実際に体験してみる
3	レクリエーションの「楽しさ」(心の元気はどこから）	講義・演習	アルバート＝メラビアンの法則
4	レクリエーションの効用（1）(楽しさの理由―達成感）	講義・演習	アルバート＝バンデゥ―ラー（自己効力感）
5	レクリエーションの効用（2）(楽しさの理由―コミュニケーション力）	講義・演習	アブラハム―マズローの法則
6	レクリエーションの効用（3）(心の元気はどこから）	講義・演習	ロジェ＝カイヨワ(遊びと人間）
7	レクリエーションの支援法（1）信頼関係づくり	講義・演習	ジョハリの窓
8	レクリエーションの支援法（2）良好な集団づくり	講義・演習	ヨハン＝ホイジンガー（ホモルーデンス）
9	レクリエーションの支援法（3）やる気の変化、成功体験	講義・演習	ICF（国際生活機能分類）の理解
10	レクリエーション支援技術（1）アイスブレーキングの技術	講義・演習	アイスブレーキングモデル
11	レクリエーション支援技術（2）アイスブレーキングの技術	講義・演習	ー指示ー動作　説明のゲーム化
12	レクリエーション支援技術（3）アイスブレーキングの技術	講義・演習	ハードル設定　CSSプロセス
13	支援プログラムの作成	講義・演習	同時発生、同時動作、アレンジ
14	レクリエーション支援の実技（1）パフォーマンスの発揮	発表	人前でパフォーマンスができる
15	レクリエーション支援の実技（2）評価	発表	まとめ
16	レク活動を支援する方法を習得する①（エコクラフト）	演習	定規、ハサミの準備
17	レク活動を支援する方法を習得する②（エコクラフト）	演習	定規、ハサミの準備
18	レクリエーション活動を習得する（障害者スポーツ、風船バレーボール等）	演習	ジャージ・体育館シューズ持参
19	レクリエーション活動を習得する（障害者スポーツ、ボッチャ等）	演習	ジャージ・体育館シューズ持参
20	高齢者分野のプログラムについて考える（実習先の方々を対象としたレク支援案計画）	演習	実習記録（アセスメントシート類） 実習先での利用者像を振り返りイメージし考えてくる
21	季節に応じた日本の風習について知る（年末年始の習わし、正月にちなんだ遊び等）	講義・演習	ジャージ・体育館シューズ持参
22	レクリエーション活動を習得する（ニュースポーツ、チャレンジ・ザ・ゲーム）	演習	ジャージ・体育館シューズ持参

23	レクリエーション活動を習得する（脳活性化トレーニング）	演習	ジャージ・体育館シューズ持参
24	レクリエーション活動を習得する（お手玉等）	演習	お手玉に関連する内容を調べてくる
25	レクリエーション活動を習得する（グラウンドゴルフ）	講義・演習	事前に調べてくる
26	レクリエーション活動を習得する（歌、音楽を使ったプログラムの展開）	GW・演習	年代別流行った歌について調べておく
27	レクリエーション活動を習得する（介護予防体操、口腔体操、指体操等）	GW・演習	事前に考えてくる
28	レクリエーション活動を習得する（高齢者のためのゲーム、テーブルゲーム）	演習	ジャージ・体育館シューズ持参
29	子ども分野のプログラムについて考える（地域のきずな作り、被災地での関わり支援案実施）	演習	ジャージ・体育館シューズ持参
30	レクリエーションインストラクターの役割について理解する・まとめ	講義・試験	

■受講上の注意

天候や状況に応じ、内容は入れ替わることがある
コミュニケーション能力が必ず向上するので覚えた指導法は反復練習することで身につく
「恥」をかき、「頭」をかき、「汗」をかく

■成績評価の方法

レクリエーション援助技術①　50%
　授業の後半5分間・・ミニッツカードの記入(その日得た知見記入)
　14回、15回でパフォーマンスの発表
レクリエーション援助技術②　50%
　実技　30%　③支援案・計画作成　10%　④演習への参加状況　10%

■テキスト参考書など

講師の準備資料

■備考

レジュメ及び資料を綴じるためのファイルを準備すること

■実務経験

介護福祉学特講 Ⅰ

講師:全教員

単位数:2単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域の理解として、各科目を繰り返し復習・予習をする。また、学習をとおして介護福祉士に必要な知識や技術の習得をめざす。
領域
「人間と社会」 「介護」 「こころとからだのしくみ」 「医療的ケア」
授業は参考文献を使用しながら課題学習に沿って展開する。加えて定期的な模擬試験の総合的解説等による再復習を行い、国家試験合格に値する学力を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

■成績評価の方法

①終講試験(模擬試験) 100%

■テキスト参考書など

図解でスッキリ!「介護福祉士テキスト」 ナツメ社

■備考

1年次に履修した教科書も参考にする
資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である

介護福祉学特講Ⅱ

講師:全教員

単位数:4単位　時間数:60時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域の理解として、各科目の総復習をする。また、学習をとおして介護福祉士に必要な知識や技術の習得をめざす。
領域
　「人間と社会」　「介護」　「こころとからだのしくみ」　「医療的ケア」
授業は参考文献を使用しながら課題学習に沿って展開する。1年次から2年次までに学習した事を総合的にとらえ、国家試験合格を目標とした総合学習に取り組む。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

■受講上の注意

■成績評価の方法

①国試の模擬試験　80%　②授業への取り組み　20%

■テキスト参考書など

見て覚える！介護福祉士国試ナビ　中央法規
クエスチョンバンク介護福祉士国家試験問題解説　メディックメディア

■備考

1～2年次に履修した教科書も参考にする
資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、介護福祉士・看護師として実務経験のある教員による授業である

人工知能概論

講師:平原 大助

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

人工知能について理解を深め、医療や介護へ利活用できる知識を修得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	開講オリエンテーション	講義・GW	講義を受講する際のルールを理解する
2	AI概要 人工知能とは何か？ 歴史や種類や働きを理解する	講義・GW	配布資料や参考文献を予習し、講義の復習も行い理解を深めること
3	機械学習概論 機械学習とは何か？ 目的変数、説明変数、特徴量と設計、混合行列と評価法を理解する	講義・GW	配布資料や参考文献を予習し、講義の復習も行い理解を深めること
4	深層学習概論 深層学習とは何か？ CNN、GAN、自ら特徴を学ぶ有用性などを理解する	講義・GW	配布資料や参考文献を予習し、講義の復習も行い理解を深めること
5	機械学習実践1 線形回帰を実装し機械学習モデルが「高精度の予測を行うこと」が可能になるかを体感し修得する	講義・演習	配布資料や参考文献を予習し、講義の復習も行い理解を深めること
6	機械学習実践2 高度な機械学習アルゴリズムを実装し、データの重要性とアルゴリズム選択の必要性を修得する	講義・演習	配布資料や参考文献を予習し、講義の復習も行い理解を深めること
7	深層学習実践1 初歩的な深層学習を実装し、機械が自ら特徴量を抽出し学習することで獲得する高度な問題解決力を体験する	講義・演習	配布資料や参考文献を予習し、講義の復習も行い理解を深めること
8	深層学習実践2 CNNを実装し、画像分類や画像から年齢予測を行い、医療への適応時の問題点を理解する	講義・演習	配布資料や参考文献を予習し、講義の復習も行い理解を深めること

■受講上の注意

高等教育であることを理解し、積極的に取り組むこと。わからない用語や未知の事を自ら調べ学ぶこと。

■成績評価の方法

①出席率　20%　② レポート　70%　③ 受講態度　10%

■テキスト参考書など

適宜、資料配布

■備考

全ての講義でスマートフォンを使用するので持参すること(持っていない場合や利用不可の場合は申し出ること)

■実務経験

ビジネス教養

講師：中村 直也、全教員

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

社会生活において必要な知識やマナー、生活管理について学び、社会人としての自覚を芽生えさせる。また、日本の文化に触れ、生きていくための知恵、知識、作法等を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自分を知り、他人と異なる考え・思い・存在であることを感じる。	講義・演習	自分を素直に見ること、他人を否定しないことを意識してｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを行います。
2	集団の中の自分の役割に気づき、自分と他人の存在必要性があることを知る	講義・演習	適宜変化する環境の中での自分の考え、思いの変化、他人との違いに気づき、認め合いながら協力していることを感じます。
3	情報のとらえ方、考え方引き出し方を知り、また、デジタルコミュニケーションを正しく活用できる能力をつける	講義	自分が情報にどう影響されるのか、意識についても学びます。デジタル社会の問題と良い利用について個人と社会の面から学びます。
4	ライフプランの基礎知識を身に着ける	講義	お金、自分、家庭、社会の関係から自分にとってのお金の役割を広い視点で学びます。
5	働くということを理解し、仕事への取り組み方がわかる	講義	テキストを読んでおく
6	介護福祉の現場で働くということを理解できる	講義	テキストを読んでおく
7	就業中の基本ルールとマナーについて理解できる	講義・演習	テキストを読んでおく
8	安心感を与える印象について理解できる	講義	テキストを読んでおく
9	信頼を築く言葉遣いについて理解できる	講義・演習	テキストを読んでおく
10	コミュニケーションの基礎を学び、人間関係の基本を理解できる	講義・演習	テキストを読んでおく
11	自分自身のストレスマネジメントについて理解できる	講義	テキストを読んでおく
12	就職活動について学ぶ（マナー、身だしなみ、面接の受け方、言葉遣い等について身につける）	講義・演習	就職活動に必要なマナー、身だしなみ、言葉使い、面接などの学びから、就職への意識を持ち、社会人としての準備をします。
13	社会の一員として必要な知識を身につける－① （挨拶、電話応対、名刺交換、メール、手紙、立ち居振る舞いなど）	講義・演習	今までとは異なる動作、意識が必要となります。また、場所や社会環境によって変化することに注意します。
14	社会の一員として必要な知識を身につける－② （モラル、冠婚葬祭、社会保障など）	講義・演習	今までとは異なる動作、意識が必要となります。また、場所や社会環境によって変化することに注意します。
15	終講試験およびまとめ	筆記試験　講義	授業のまとめと筆記試験

■受講上の注意

演習には積極的に取り組むこと

■成績評価の方法

終講試験（筆記試験）100%

■テキスト参考書など

適宜、資料を配布する

■備考

■実務経験